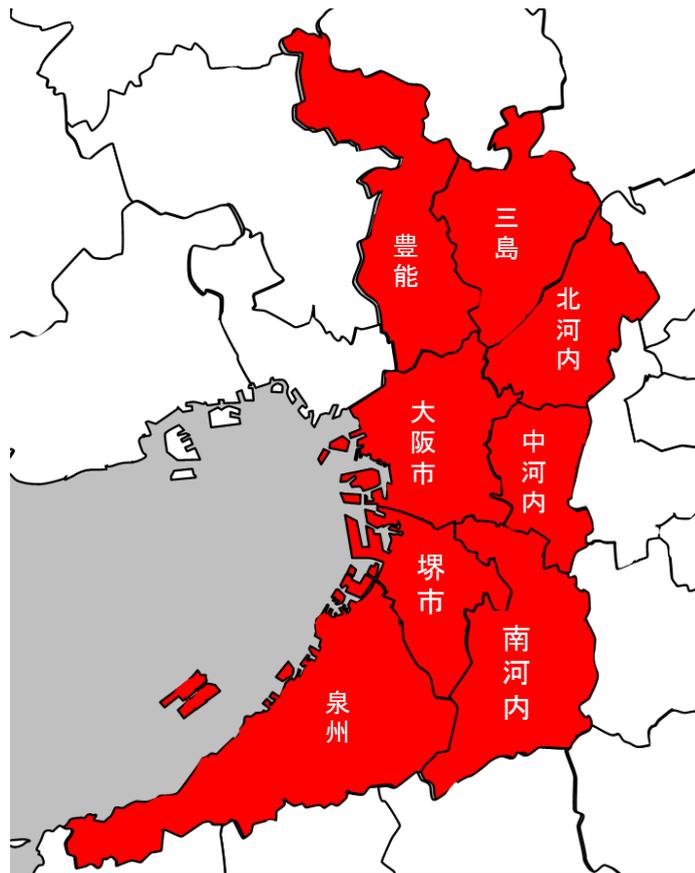


27. 大阪府

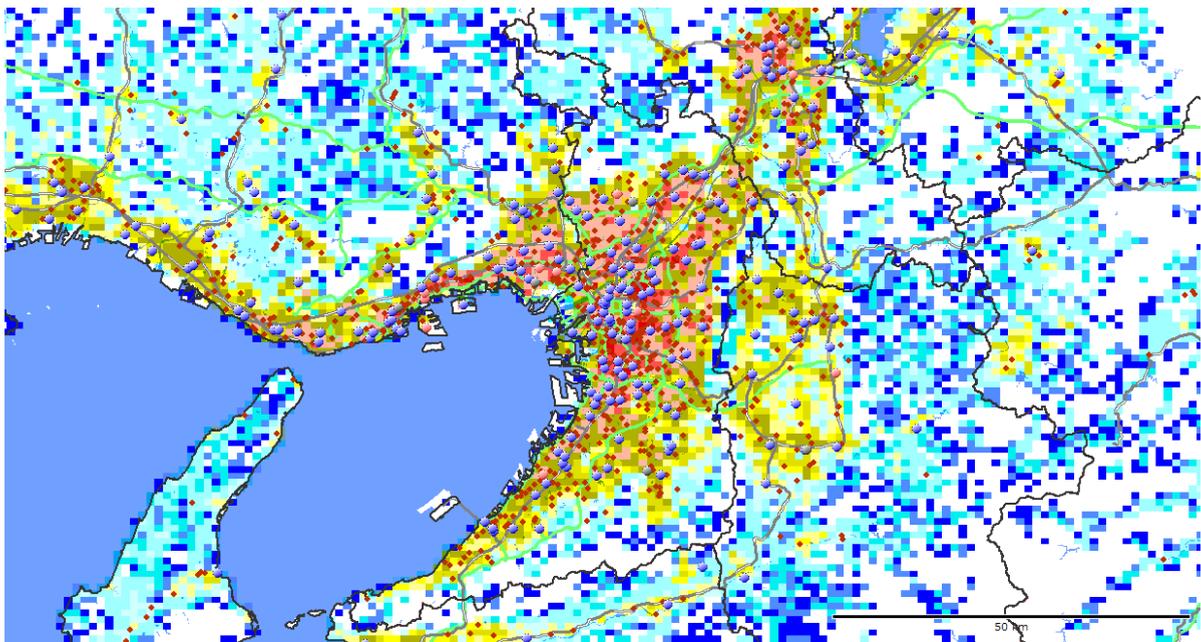


目次

大阪府	27	-	3
資料編 一 当県ならびに二次医療圏別資料	27	-	8
1. 豊能医療圏	27	-	26
2. 三島医療圏	27	-	31
3. 北河内医療圏	27	-	36
4. 中河内医療圏	27	-	41
5. 南河内医療圏	27	-	46
6. 堺市医療圏	27	-	51
7. 泉州医療圏	27	-	56
8. 大阪市医療圏	27	-	61

27. 大阪府

人口分布 (1km²区画単位)



1km²区画 (1km²メッシュ) で分割した各区画内の居住人口。
赤色系統は人口が多く (10,000人/km²以上)、黄色系統は
中間レベル (1,000~10,000人/km²)、青色系統は人口が
少ない (1,000人/km²未満)。白色は非居住地。
出所：国勢調査 (平成22年、総務省) 地図情報GIS
Market Analyzer ver. 3.7 地図 PAREAシリーズ

区画内人口 (1平方キロ)



DPC病院



(大阪府) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

【地域の概要】

*人口、面積など： 大阪府は、総人口約8,839千人(2015年)、面積1,905km²、人口密度は4,640人/km²である。

*人口の将来予測： 大阪府の総人口は2025年に8,526千人へと減少し(2015年比-4%)、2040年に7,649千人へと減少する(2025年比-10%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の1,050千人が、2025年にかけて1,507千人へと増加し(2015年比+44%)、2040年には1,433千人へと減少する(2025年比-5%)ことが予想される。

*医療費と介護給付費： 大阪府の一人当たり医療費(国保)は354千円(偏差値52)、介護給付費は268千円(偏差値55)であり、医療費は全国平均レベルであるが、介護給付費はやや高い。

【医療の現状】

*入院医療の充実度： 大阪府の一人当たり急性期医療密度指数は1.07、一人当たり慢性期医療密度指数は1.01で、急性期の医療も慢性期の医療も全国平均レベルである。

*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が53(病院医師数53、診療所医師数55)と、総医師数、病院医師数、診療所医師数ともにほぼ全国平均レベルである。総看護師数の偏差値は49と全国平均レベルである。

*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は52で、一般病床は全国平均レベルである。全身麻酔数の偏差値は53とやや多い。

*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は50と療養病床数は全国平均レベルである。

*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値49と全国平均レベルであり、回復期病床数は偏差値51と全国平均レベルである。

*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は48で精神病床数は全国平均レベルである。

*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は58で診療所数は多い。

【介護施設や在宅ケアの現状】

*介護施設の現状： 大阪府の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、109,503人(75歳以上1,000人当たりの偏差値50)と全国平均レベルである。そのうち、介護保険施設の定員が54,657床(偏差値43)、高齢者住宅等が54,846床(偏差値56)である。介護保険施設は全国平均レベルを下回るが、高齢者住宅等は全国平均レベルを上回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、73,864人(75歳以上1,000人当たりの偏差値42)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設44、特別養護老人ホーム46、介護療養型医療施設45、有料老人ホーム52、軽費ホーム49、グループホーム46、サ高住64である。

*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値67と非常に多く、在宅療養支援病院は偏差値55とやや多い。また、訪問看護ステーションは偏差値64と多い。介護職員(在宅)の合計は、30,453人(75歳以上1,000人当たりの偏差値77)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを大きく上回る。

*介護の2025年の需要予測： 2025年の介護充足度指数は-43%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、多くの高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

2. 推移

【人口と医療需要】

大阪府の総人口は、2005年8,817,166人が、2015年に8,839,469人と1%未満増加し、2025年の人口が8,526,202人と予測され、2005年→2025年の間に3%程度の減少が予測されている。

医療の需要（医療費ベース）は、2005年から2015年に17%増加し、2015年から2025年にかけて5%程度の増加が予測される。

【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

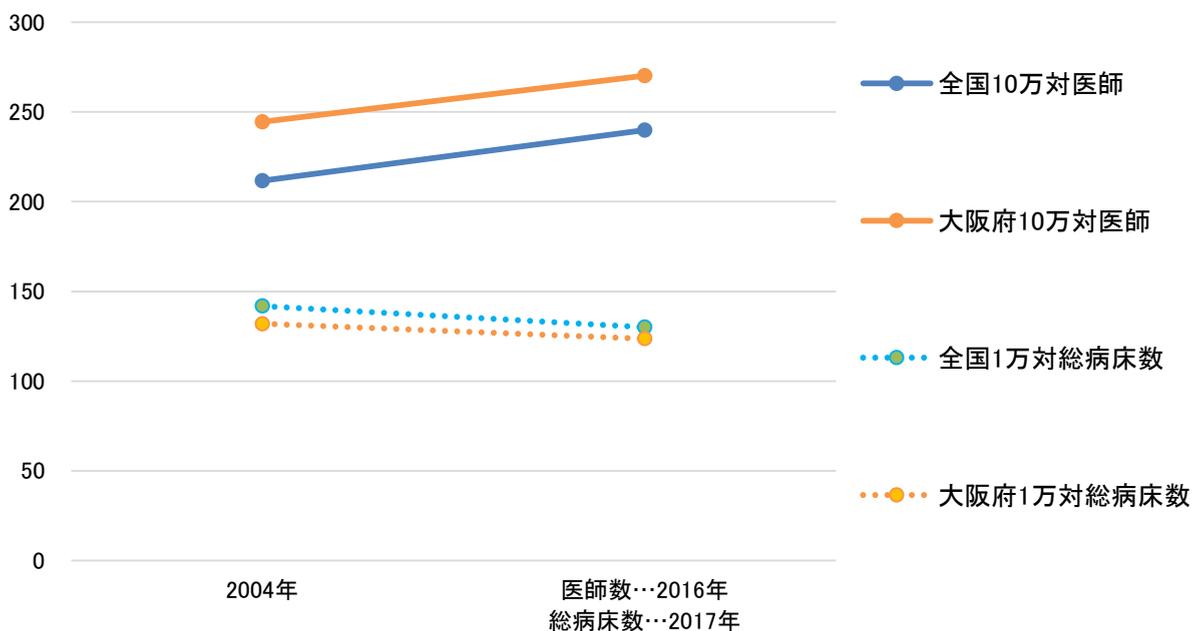
2004年の病院数が555(人口10万人当たり6.3病院(全国平均7.1)偏差値48)であったが、2017年に521(人口10万人当たり5.9病院(全国平均6.6)偏差値48)となり、13年間で34病院が減少した。

2004年の診療所数が8,118(人口10万人当たり92診療所(全国平均76)偏差値58)であったが、2017年に8,400(人口10万人当たり95診療所(全国平均80)偏差値58)と、282診療所が増加した。

2004年の総病床数が116,330床(人口1万人当たり132(全国平均142)偏差値48)であったが、2017年に109,288床(人口1万人当たり124(全国平均130)偏差値49)と、7,042床の減少、率にして6%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。

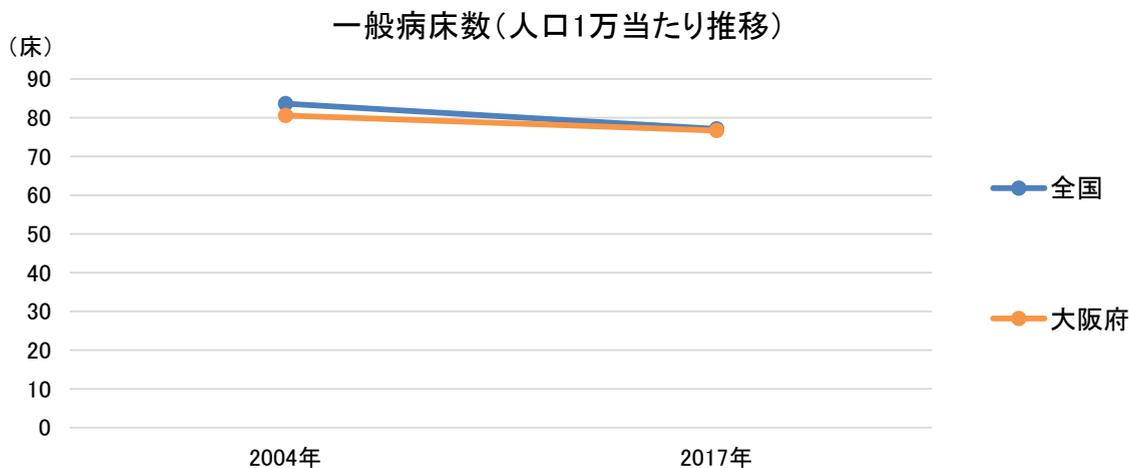
2004年には病院と診療所合わせての総医師数が21,563人(人口10万人当たり245人(全国平均212人)偏差値54)であったが、2016年に23,886人(人口10万人当たり270人(全国平均240人)偏差値53)と、2,323人の増加、率にして11%の増加(全国平均13%の増加)が見られた。

人口当たり医師数・総病床数の推移



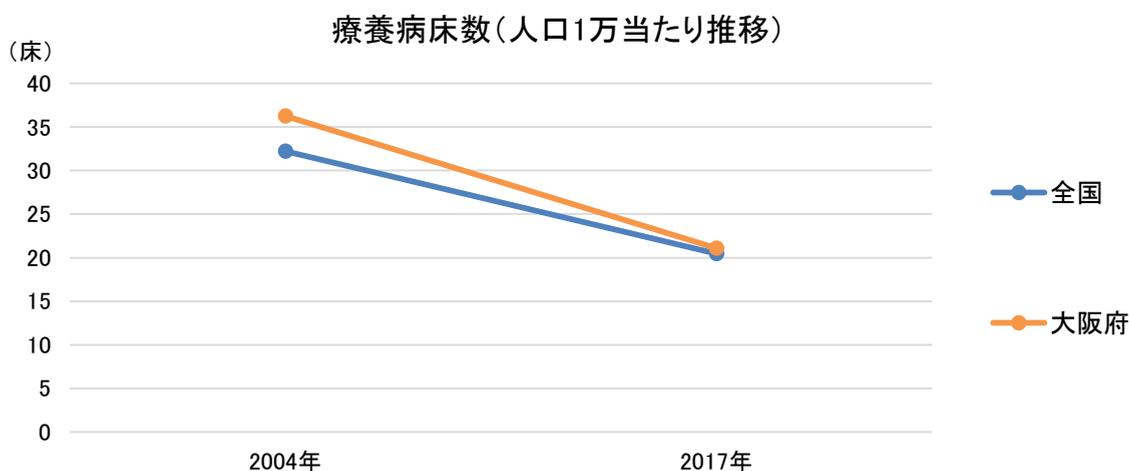
【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が71,070床(人口1万人当たり81(全国平均84)偏差値49)であったが、2017年に67,770床(人口1万人当たり77(全国平均77)偏差値50)と、3,300床の減少、率にして5%の減少(全国平均8%の減少)が見られた。



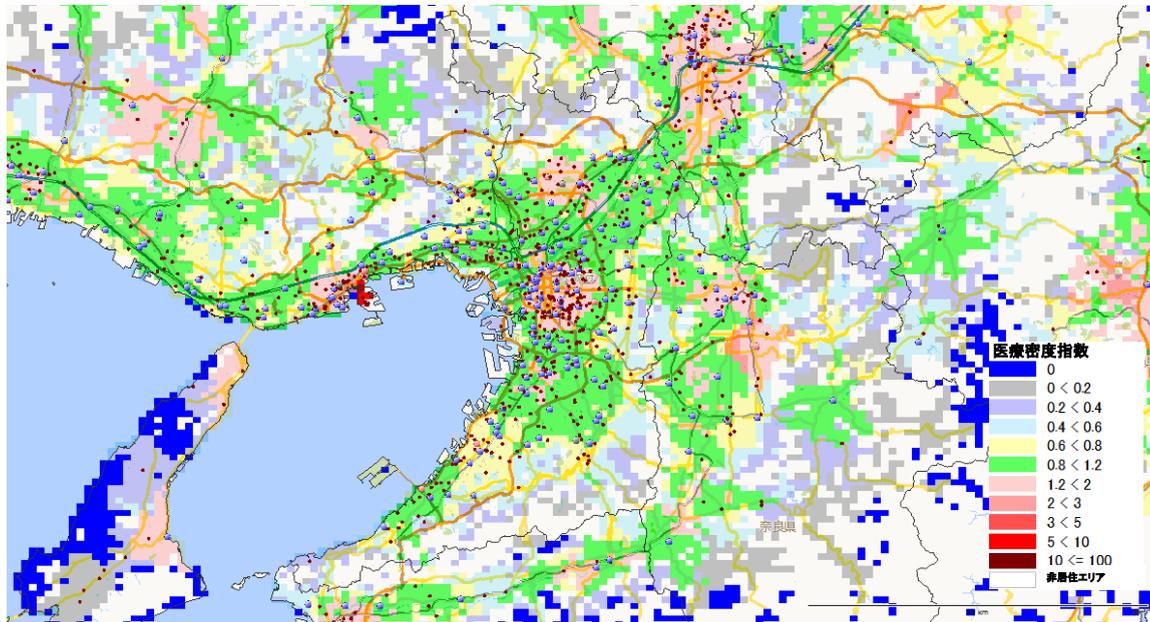
【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が23,571床(75歳以上1,000人当たり36(全国平均32)偏差値52)であったが、2017年に22,138床(75歳以上1,000人当たり21(全国平均20)偏差値51)と、1433床の減少、率にして6%の減少(全国平均11%の減少)が見られた。



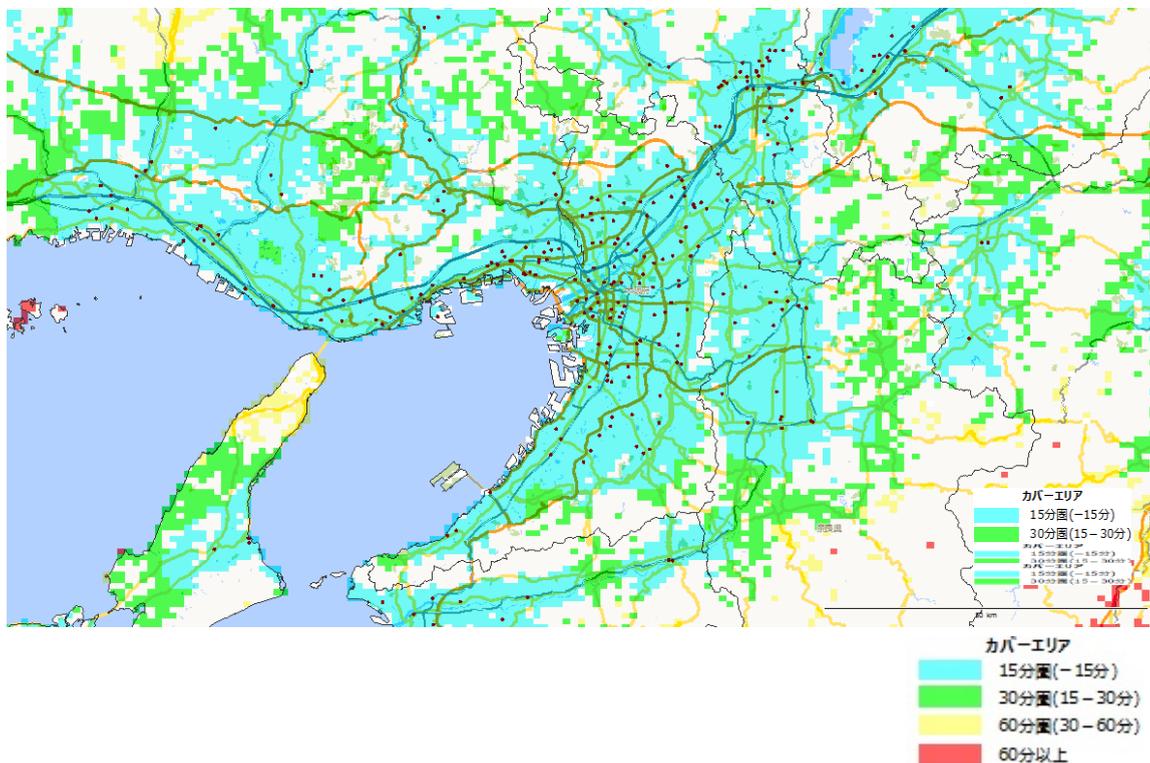
(大阪府) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表27-1 急性期医療密度指数マップ



図表27-2 分娩医療機関への所用運転時間（カバーエリア）

※全国1km²メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関（病院と有床診療所）への運転時間を計算し、1km²メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの（「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照（日医総研WP no. 400）」）



資料編 ー 当県ならびに二次医療圏別資料

資_図表 27-1 地理情報・人口動態

二次医療圏	人口 (単位: 千人)	県内 シェア	面積	県内 シェア	人口 密度	地域タイプ	高齢 化率	2025年 総人口 (単位: 千人)	2040年 総人口 (単位: 千人)	2015年 75歳以上 人口 (単位: 千人)	2025年 75歳以上 人口 (単位: 千人)	2040年 75歳以上 人口 (単位: 千人)	2015→ 25年 総人口 増減率	2025→ 40年 総人口 増減率	2015→ 25年 75歳以上 人口 増減率	2025→ 40年 75歳以上 人口 増減率
全国	127,095		372,950		340.8		27%	122,544	110,919	16,322	21,800	22,392	-4%	-9%	34%	3%
大阪府	8,839	3位	1,905	46位	4,639.7		26%	8,526	7,649	1,050	1,507	1,433	-4%	-10%	44%	-5%
豊能	1,037	12%	276	14%	3,761.2	大都市型	25%	1,047	996	120	180	186	1%	-5%	50%	3%
三島	747	8%	213	11%	3,498.8	大都市型	26%	729	664	84	131	125	-2%	-9%	56%	-5%
北河内	1,164	13%	177	9%	6,563.7	大都市型	28%	1,077	894	136	213	195	-7%	-17%	57%	-8%
中河内	843	10%	129	7%	6,541.1	大都市型	28%	792	689	103	143	124	-6%	-13%	39%	-13%
南河内	613	7%	290	15%	2,113.4	大都市型	29%	554	446	79	115	108	-10%	-19%	46%	-6%
堺市	839	9%	150	8%	5,601.7	大都市型	27%	813	734	100	150	137	-3%	-10%	50%	-9%
泉州	906	10%	445	23%	2,036.3	大都市型	25%	851	738	104	146	142	-6%	-13%	40%	-3%
大阪市	2,691	30%	225	12%	11,948.1	大都市型	25%	2,663	2,489	324	428	417	-1%	-7%	32%	-3%

出典 <人口(2015年)>平成27年国勢調査 人口等基本集計 平成27年10月
<人口(2025年、2040年)>日本の地域別将来推計人口 国立社会保障・人口問題研究所 平成30年3月
<面積>平成27年国勢調査 人口等基本集計 平成27年10月

資_図表 27-2 一人当たり医療密度指数、介護充足度指数

二次医療圏	一人当たり 急性期医療 密度指数	一人当たり 慢性期医療 密度指数	75歳以上介護充足度		
			2016年 ベッド数	2025年目標 ベッド数	2025年充足度 指数 (%)
全国	1.00	1.00	1,485,377	1,772,098	-19.3%
大阪府	1.07	1.01	87,035	124,336	-42.9%
豊能	1.09	0.57	9,981	14,076	-41.0%
三島	1.00	0.62	6,161	10,665	-73.1%
北河内	1.00	0.68	11,263	17,524	-55.6%
中河内	0.87	1.15	7,691	12,188	-58.5%
南河内	0.93	1.65	5,802	9,420	-62.4%
堺市	1.09	1.57	6,889	11,906	-72.8%
泉州	0.78	1.07	6,324	12,069	-90.8%
大阪市	1.31	0.85	32,924	36,488	-10.8%

出典 <一人当たり急性期医療密度指数><一人当たり慢性期医療密度指数>その地域の住民が、どの程度の医療(急性期及び慢性期)を利用できるかの目安を示す指標。1.0が全国平均。0.8を下回ると少ない、0.6を下回ると非常に少ない、1.2以上充実、1.5以上非常に充実。(「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2016年度版)序章【参考資料】参照(日医総研WP no.375))
<75歳以上介護充足度指数>高齢者住宅・施設の各地域の受入れ充足度を示す指標。2025年の75歳以上推定人口から算出した高齢者住宅・施設の目標ベッド数が2016年ベッド数と比べて何%多いか少ないかを示す。集計対象は、介護三施設、軽費老人ホーム、グループホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者賃貸住宅等である。

資_図表 27-3 国保の医療費・地域差指数、全体の介護給付費

二次医療圏	一人あたり 医療費 (国保のみ) (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数	入院費 (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数	入院外+ 調剤 (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数	被保険者 一人あたり 介護給付費 (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	347	(43)	1.000	133	(30)	1.000	188	(17)	1.000	252	(35)
大阪府	354	52	1.061	133	50	1.035	192	52	1.057	268	55
豊能	358	53	1.033	132	50	0.990	195	54	1.033	247	49
三島	379	57	1.063	146	54	1.066	203	58	1.047	208	37
北河内	358	53	1.042	133	50	1.007	197	55	1.049	241	47
中河内	360	53	1.066	132	50	1.020	197	55	1.069	266	54
南河内	361	53	1.030	138	51	1.020	194	53	1.016	252	50
堺市	371	56	1.069	142	53	1.066	198	56	1.047	269	55
泉州	360	53	1.064	141	52	1.084	191	52	1.039	249	49
大阪市	335	47	1.076	123	46	1.026	183	47	1.085	317	69
出典	<一人あたり医療費>平成28年度医療費の地域差分析 厚生労働省 <一人あたり介護給付費>平成29年度介護保険事業状況報告(年報) 平成29年度累計(平成29年3月サービス分から平成30年2月サービス分まで) ※介護給付費の二次医療圏値の算定には、福岡県と沖縄県の一部市町村が二次医療圏をまたぐ広域連合を構成しているため、構成市町村の75歳以上人口による按分を用いた。また、複数の二次医療圏をもつ横浜市および川崎市は同じデータを記載。										

資_図表 27-4 後期高齢者の医療費・地域差指数

二次医療圏	一人あたり 後期高齢者 医療費 (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数	入院費 (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数	入院外+ 調剤 (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数
全国	919	(120)	1.000	458	(98)	1.000	427	(39)	1.000
大阪府	1,033	60	1.154	509	55	1.157	475	62	1.124
豊能	990	56	1.112	480	52	1.094	458	58	1.097
三島	1,028	59	1.155	528	57	1.211	454	57	1.079
北河内	962	54	1.083	457	50	1.061	460	58	1.085
中河内	967	54	1.097	445	49	1.037	472	62	1.130
南河内	961	53	1.071	470	51	1.066	442	54	1.045
堺市	1,065	62	1.179	553	60	1.250	461	59	1.079
泉州	1,066	62	1.174	564	61	1.266	457	58	1.067
大阪市	1,103	65	1.214	535	58	1.193	516	73	1.211
出典	<一人あたり医療費>平成28年度医療費の地域差分析 厚生労働省								

資_図表 27-5 病院数、診療所数

二次医療圏	病院数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	診療所数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	8,412		6.6	(4.6)	101,471		80	(18.9)
大阪府	521	6.2%	5.9	48	8,400	8.3%	95	58
豊能	47	9%	4.5	45	973	12%	94	57
三島	39	7%	5.2	47	596	7%	80	50
北河内	61	12%	5.2	47	896	11%	77	48
中河内	38	7%	4.5	45	657	8%	78	49
南河内	38	7%	6.2	49	460	5%	75	47
堺市	44	8%	5.2	47	736	9%	88	54
泉州	75	14%	8.3	54	670	8%	74	47
大阪市	179	34%	6.7	50	3,412	41%	127	75
出典	平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月			

資_図表 27-6 診療所数(全体、無床、有床)

二次医療圏	診療所数(再掲)	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	無床診療所数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	有床診療所数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	101,471		80	(18.9)	94,269		74	(18.7)	7,202		5.7	(6.0)
大阪府	8,400	8.3%	95	58	8,162	8.7%	92	60	238	3.3%	2.7	45
豊能	973	12%	94	57	956	12%	92	60	17	7%	1.6	43
三島	596	7%	80	50	575	7%	77	52	21	9%	2.8	45
北河内	896	11%	77	48	859	11%	74	50	37	16%	3.2	46
中河内	657	8%	78	49	635	8%	75	51	22	9%	2.6	45
南河内	460	5%	75	47	448	5%	73	49	12	5%	2.0	44
堺市	736	9%	88	54	710	9%	85	56	26	11%	3.1	46
泉州	670	8%	74	47	647	8%	71	49	23	10%	2.5	45
大阪市	3,412	41%	127	75	3,332	41%	124	77	80	34%	3.0	45
出典	平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月			

資_図表 27-7 病院総病床数、診療所病床数

二次医療圏	病院 総病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	診療所 病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	病院+ 診療所 病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	1,554,879		1,223	(481)	98,355		77	(94)	1,653,234		1,301	(537)
大阪府	106,920	6.9%	1,210	50	2,368	2.4%	27	45	109,288	6.6%	1,236	49
豊能	11,117	10%	1,072	47	201	8%	19	44	11,318	10%	1,092	46
三島	8,935	8%	1,196	49	227	10%	30	45	9,162	8%	1,227	49
北河内	11,928	11%	1,025	46	434	18%	37	46	12,362	11%	1,062	46
中河内	7,438	7%	883	43	188	8%	22	44	7,626	7%	905	43
南河内	8,331	8%	1,359	53	140	6%	23	44	8,471	8%	1,382	52
堺市	12,300	12%	1,465	55	208	9%	25	44	12,508	11%	1,490	54
泉州	14,707	14%	1,623	58	269	11%	30	45	14,976	14%	1,653	57
大阪市	32,164	30%	1,195	49	701	30%	26	45	32,865	30%	1,221	49
出典	平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				病院総病床数と診療所病床数の合計			

資_図表 27-8 病院病床数(一般病床、療養病床、精神病床)

二次医療圏	一般 病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	療養 病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	精神 病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	890,865		701	(223)	325,228		256	(203)	331,700		261	(210)
大阪府	65,446	7.3%	740	52	22,094	6.8%	250	50	18,828	5.7%	213	48
豊能	7,316	11%	706	50	1,662	8%	160	45	2,035	11%	196	47
三島	5,259	8%	704	50	1,133	5%	152	45	2,543	14%	340	54
北河内	7,860	12%	675	49	2,098	9%	180	46	1,791	10%	154	45
中河内	4,370	7%	519	42	1,328	6%	158	45	1,740	9%	206	47
南河内	4,758	7%	776	53	1,867	8%	305	52	1,640	9%	268	50
堺市	5,727	9%	682	49	3,727	17%	444	59	2,747	15%	327	53
泉州	4,620	7%	510	41	3,980	18%	439	59	6,097	32%	673	70
大阪市	25,536	39%	949	61	6,299	29%	234	49	235	1%	9	38
出典	平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月			

資_図表 27-9 回復期リハビリ病棟病床数と地域包括ケア病棟病床数

二次医療圏	回復期 病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	地域包括 ケア 病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
大阪府	5,884	7.3%	67	51	3,818	5.2%	43	48
豊能	877	15%	85	55	174	5%	17	43
三島	604	10%	81	54	347	9%	46	48
北河内	815	14%	70	51	289	8%	25	45
中河内	384	7%	46	46	225	6%	27	45
南河内	180	3%	29	43	460	12%	75	53
堺市	482	8%	57	49	452	12%	54	49
泉州	862	15%	95	57	366	10%	40	47
大阪市	1,680	29%	62	50	1,505	39%	56	50
出典	平成29年度病床機能報告 平成29年7月				平成30年5月地方厚生局			

資_図表 27-10 公的病院病床数、民間病院病床数

二次医療圏	公的病院			民間病院			一般病床		療養病床	
	総病床数	一般 病床数	療養 病床数	総病床数	一般 病床数	療養 病床数	公的病院 病床数 の比率	偏差値 *全国は 標準偏差	公的病院 病床数 の比率	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	445,096	396,156	16,674	1,098,305	495,042	301,360	44.5%	(27%)	5.2%	(22%)
大阪府	20,858	19,697	73	85,165	45,901	21,434	30.0%	45	0.3%	48
豊能	4,553	4,397	0	6,564	3,005	1,576	59.4%	56	0.0%	48
三島	446	446	0	8,312	4,909	1,076	8.3%	36	0.0%	48
北河内	2,024	1,543	0	9,789	6,317	2,058	19.6%	41	0.0%	48
中河内	1,177	1,177	0	6,000	3,224	1,270	26.7%	43	0.0%	48
南河内	954	888	0	7,261	3,754	1,867	19.1%	40	0.0%	48
堺市	1,781	1,651	0	10,273	4,031	3,653	29.1%	44	0.0%	48
泉州	1,668	1,658	0	13,291	2,968	4,014	35.8%	47	0.0%	48
大阪市	8,255	7,937	73	23,675	17,693	5,920	31.0%	45	1.2%	48
出典	地方厚生局指定一覧平成30年12月公表データをもとに株式会社ウェルネスが集計 公的病院の分類は、「新公立病院改革プラン」と「公的医療機関等2025プラン」の策定対象医療機関および開設者が国の医療機 関とし、それ以外は民間病院とした。									

資_図表 27-11 全身麻酔件数、分娩件数(年間)

二次医療圏	全身麻酔 件数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	分娩件数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	3,945,312		3,104	(2,557)	923,436		727	(264)
大阪府	334,620	8.5%	3,786	53	59,820	6.5%	677	48
豊能	19,608	6%	1,892	45	8,004	13%	772	52
三島	10,140	3%	1,358	43	6,300	11%	844	54
北河内	20,544	6%	1,765	45	6,420	11%	552	43
中河内	12,132	4%	1,440	43	5,232	9%	621	46
南河内	17,544	5%	2,863	49	3,888	6%	634	47
堺市	12,276	4%	1,463	44	5,280	9%	629	46
泉州	35,520	11%	3,921	53	7,644	13%	844	54
大阪市	206,856	62%	7,686	68	17,052	29%	634	46
出典	平成29年度病床機能報告 ※平成29年6月の月間件数×12				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月 ※平成29年9月の月間件数×12			

資_図表 27-12 医師数(総数、病院医師数、診療所医師数)

二次医療圏	総医師数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	病院 医師数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	診療所 医師数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	304,759		240	(90)	202,302		159	(72)	102,457		81	(23)
大阪府	23,886	7.8%	270	53	15,788	7.8%	179	53	8,098	7.9%	92	55
豊能	3,538	15%	341	61	2,579	16%	249	62	959	12%	93	55
三島	1,914	8%	256	52	1,311	8%	176	52	603	7%	81	50
北河内	2,598	11%	223	48	1,707	11%	147	48	891	11%	77	48
中河内	1,479	6%	176	43	817	5%	97	41	662	8%	79	49
南河内	1,720	7%	281	55	1,258	8%	205	56	462	6%	75	48
堺市	1,906	8%	227	49	1,207	8%	144	48	699	9%	83	51
泉州	1,890	8%	209	47	1,223	8%	135	47	667	8%	74	47
大阪市	8,841	37%	329	60	5,686	36%	211	57	3,155	39%	117	66
出典	病院医師数と診療所医師数の合計				平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月				平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月			

資_図表 27-13 専門医数 (総合内科、小児科、産婦人科)

二次医療圏	総合内科				小児科				産婦人科			
	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	22,522		17.7	(9.2)	13,551		10.7	(4.8)	11,242		8.8	(4.0)
大阪府	1,680	7.5%	19.0	51	948	7.0%	10.7	50	914	8.1%	10.3	54
豊能	270	16%	26.0	59	138	15%	13.3	56	147	16%	14.2	63
三島	143	9%	19.1	52	79	8%	10.6	50	76	8%	10.2	53
北河内	179	11%	15.4	47	110	12%	9.5	47	87	10%	7.5	47
中河内	77	5%	9.1	41	57	6%	6.8	42	69	8%	8.2	48
南河内	112	7%	18.3	51	59	6%	9.6	48	48	5%	7.8	47
堺市	145	9%	17.3	50	76	8%	9.1	47	61	7%	7.3	46
泉州	109	6%	12.0	44	121	13%	13.4	56	88	10%	9.7	52
大阪市	645	38%	24.0	57	308	32%	11.4	52	338	37%	12.6	59
出典	平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月											

資_図表 27-14 専門医数 (皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科)

二次医療圏	皮膚科				眼科				耳鼻咽喉科			
	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	5,609		4.4	(2.2)	9,812		7.7	(3.3)	7,687		6.0	(2.6)
大阪府	388	6.9%	4.4	50	902	9.2%	10.2	58	627	8.2%	7.1	54
豊能	66	17%	6.4	59	112	12%	10.8	59	92	15%	8.9	61
三島	32	8%	4.3	49	79	9%	10.6	59	51	8%	6.8	53
北河内	46	12%	4.0	48	100	11%	8.6	53	75	12%	6.4	51
中河内	25	6%	3.0	43	55	6%	6.5	46	37	6%	4.4	44
南河内	29	7%	4.7	51	65	7%	10.6	59	34	5%	5.5	48
堺市	29	7%	3.5	46	79	9%	9.4	55	42	7%	5.0	46
泉州	26	7%	2.9	43	55	6%	6.1	45	51	8%	5.6	48
大阪市	135	35%	5.0	53	357	40%	13.3	67	245	39%	9.1	62
出典	平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月											

資_図表 27-15 専門医数(精神科、外科、整形外科)

二次医療圏	精神科				外科				整形外科			
	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	9,177		7.2	(3.4)	21,168		16.7	(7.1)	16,463		13.0	(4.6)
大阪府	608	6.6%	6.9	49	1,646	7.8%	18.6	53	1,240	7.5%	14.0	52
豊能	84	14%	8.1	53	275	17%	26.5	64	145	12%	14.0	52
三島	64	11%	8.6	54	118	7%	15.8	49	101	8%	13.5	51
北河内	82	13%	7.0	49	179	11%	15.4	48	149	12%	12.8	50
中河内	46	8%	5.5	45	112	7%	13.3	45	93	8%	11.0	46
南河内	40	7%	6.5	48	123	7%	20.1	55	96	8%	15.7	56
堺市	59	10%	7.0	49	130	8%	15.5	48	101	8%	12.0	48
泉州	73	12%	8.1	52	138	8%	15.2	48	93	8%	10.3	44
大阪市	160	26%	5.9	46	571	35%	21.2	56	462	37%	17.2	59
出典	平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月											

資_図表 27-16 専門医数(泌尿器科、脳神経外科、放射線科)

二次医療圏	泌尿器科				脳神経外科				放射線科			
	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	6,003		4.7	(2.1)	6,763		5.3	(2.4)	5,687		4.5	(3.0)
大阪府	496	8.3%	5.6	54	527	7.8%	6.0	53	519	9.1%	5.9	55
豊能	71	14%	6.8	60	68	13%	6.6	55	69	13%	6.7	57
三島	38	8%	5.1	52	45	9%	6.0	53	38	7%	5.1	52
北河内	66	13%	5.7	54	65	12%	5.6	51	53	10%	4.6	50
中河内	34	7%	4.0	47	35	7%	4.2	45	40	8%	4.7	51
南河内	37	7%	6.0	56	54	10%	8.8	65	39	8%	6.4	56
堺市	32	6%	3.8	46	32	6%	3.8	44	27	5%	3.2	46
泉州	33	7%	3.6	45	37	7%	4.1	45	35	7%	3.9	48
大阪市	185	37%	6.9	60	191	36%	7.1	58	218	42%	8.1	62
出典	平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月											

資_図表 27-17 専門医数(麻醉科、病理、救急科)

二次医療圏	麻醉科				病理 専門医数				救急科 専門医数			
	専門医数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	専門医数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	専門医数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	7,107		5.6	(3.3)	1,603		1.3	(1.0)	3,795		3.0	(1.9)
大阪府	554	7.8%	6.3	52	116	7.2%	1.3	51	371	9.8%	4.2	56
豊能	86	16%	8.3	58	18	16%	1.7	55	55	15%	5.3	62
三島	48	9%	6.4	53	10	9%	1.3	51	25	7%	3.3	52
北河内	64	12%	5.5	50	12	10%	1.0	48	28	8%	2.4	47
中河内	26	5%	3.1	42	6	5%	0.7	44	27	7%	3.2	51
南河内	41	7%	6.7	53	8	7%	1.3	50	28	8%	4.6	58
堺市	38	7%	4.5	47	8	7%	1.0	47	34	9%	4.1	56
泉州	45	8%	5.0	48	8	7%	0.9	46	43	12%	4.7	59
大阪市	206	37%	7.7	56	46	40%	1.7	55	131	35%	4.9	60
出典	平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月											

資_図表 27-18 専門医数(形成外科、リハビリテーション科)

二次医療圏	形成外科				リハビリテ ーション科 専門医数			
	専門医数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	専門医数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	2,141		1.7	(1.3)	2,516		2.0	(1.4)
大阪府	190	8.9%	2.1	54	181	7.2%	2.0	50
豊能	21	11%	2.0	53	26	14%	2.5	54
三島	17	9%	2.3	55	26	14%	3.5	61
北河内	21	11%	1.8	51	14	8%	1.2	44
中河内	9	5%	1.1	45	9	5%	1.1	44
南河内	10	5%	1.6	50	15	8%	2.4	53
堺市	16	8%	1.9	52	12	7%	1.4	46
泉州	8	4%	0.9	44	11	6%	1.2	45
大阪市	88	46%	3.3	63	68	38%	2.5	54
出典	平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月							

資_図表 27-19 看護師数(総数、病院看護師数、診療所看護師数)

二次医療圏	総看護師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	病院看護師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	診療所看護師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	1,145,134		901	(287)	919,205		723	(243)	225,929		178	(71)
大阪府	78,162	6.8%	884	49	64,744	7.0%	732	50	13,418	5.9%	152	46
豊能	8,716	11%	841	48	7,391	11%	713	50	1,325	10%	128	43
三島	6,169	8%	826	47	5,238	8%	701	49	930	7%	125	43
北河内	8,998	12%	773	46	7,471	12%	642	47	1,527	11%	131	43
中河内	5,327	7%	632	41	4,237	7%	503	41	1,090	8%	129	43
南河内	5,366	7%	876	49	4,632	7%	756	51	734	5%	120	42
堺市	7,569	10%	902	50	6,368	10%	759	51	1,201	9%	143	45
泉州	8,498	11%	938	51	7,310	11%	807	53	1,189	9%	131	43
大阪市	27,519	35%	1,023	54	22,096	34%	821	54	5,423	40%	202	53
出典	病院看護師数と診療所看護師数の合計				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月			

資_図表 27-20 総療法士数と薬剤師数

二次医療圏	総療法士数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	薬剤師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	139,385		110	(57)	301,323		237	(98)
大阪府	9,385	6.7%	106	49	25,632	8.5%	290	55
豊能	1,055	11%	102	49	3,367	13%	325	59
三島	862	9%	115	51	2,520	10%	337	60
北河内	1,140	12%	98	48	2,513	10%	216	48
中河内	647	7%	77	44	1,438	6%	171	43
南河内	582	6%	95	47	1,373	5%	224	49
堺市	1,015	11%	121	52	1,743	7%	208	47
泉州	1,115	12%	123	52	1,635	6%	180	44
大阪市	2,970	32%	110	50	11,043	43%	410	68
出典	平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月			

資_図表 27-21 在宅医療施設数(在宅療養支援診療所、在宅療養支援病院、訪問看護ステーション)

二次医療圏	在宅療養支援診療所	県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	在宅療養支援病院	県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	訪問看護ステーション	県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	14,224		0.9	(0.4)	1,386		0.1	(0.1)	10,994		0.7	(0.2)
大阪府	1,709	12.0%	1.6	67	125	9.0%	0.1	55	1,037	9.4%	1.0	64
豊能	176	10%	1.5	64	8	6%	0.1	47	113	11%	0.9	62
三島	142	8%	1.7	69	7	6%	0.1	50	57	5%	0.7	50
北河内	144	8%	1.1	54	19	15%	0.1	58	106	10%	0.8	55
中河内	149	9%	1.4	63	8	6%	0.1	49	94	9%	0.9	61
南河内	103	6%	1.3	60	10	8%	0.1	56	72	7%	0.9	61
堺市	153	9%	1.5	65	13	10%	0.1	56	125	12%	1.2	76
泉州	120	7%	1.2	57	21	17%	0.2	67	109	11%	1.1	67
大阪市	722	42%	2.2	81	39	31%	0.1	55	361	35%	1.1	70
出典	届出受理医療機関名簿 地方厚生局 平成30年12月				届出受理医療機関名簿 地方厚生局 平成30年12月				介護サービス情報公表システム 厚生労働省 平成30年6月			

資_図表 27-22 総高齢者施設・住宅定員数、介護保険施設定員(病床)数、高齢者住宅定員数

二次医療圏	総高齢者施設・住宅定員数	全国シェア県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	介護保険施設定員(病床)数	全国シェア県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	高齢者住宅定員数	全国シェア県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	1,695,162		104	(17)	1,001,413		61	(12)	693,749		43	(16)
大阪府	109,503	6.5%	104	50	54,657	5.5%	52	43	54,846	7.9%	52	56
豊能	12,568	11%	105	51	6,003	11%	50	41	6,565	12%	55	58
三島	7,531	7%	89	41	4,061	7%	48	39	3,470	6%	41	49
北河内	14,212	13%	104	50	6,741	12%	49	40	7,471	14%	55	58
中河内	10,728	10%	104	50	5,248	10%	51	42	5,480	10%	53	57
南河内	6,957	6%	88	41	4,100	8%	52	43	2,857	5%	36	46
堺市	9,608	9%	96	45	4,572	8%	46	37	5,036	9%	50	55
泉州	9,204	8%	89	41	4,825	9%	47	38	4,379	8%	42	50
大阪市	38,695	35%	119	59	19,107	35%	59	48	19,588	36%	60	61
出典	介護保険施設定員(病床)数と高齢者住宅定員数の合計				老人保健施設(老健)定員数、特別養護老人ホーム(特養)定員数、介護療養病床数の合計				有料老人ホーム、軽費ホーム、グループホーム、サ高住の合計			

資_図表 27-23 老人保健施設(老健)定員数、特別養護老人ホーム(特養)定員数、介護療養病床数

二次医療圏	老人保健施設(老健)定員数	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	特別養護 老人ホーム (特養) 定員数	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	介護療養 病床数	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
大阪府	20,089	5.5%	19	44	32,747	5.7%	31	46	1,821	3.1%	1.7	45
豊能	2,197	11%	18	43	3,806	12%	32	47	0	0%	0	41
三島	1,578	8%	19	44	2,412	7%	29	43	71	4%	0.8	43
北河内	2,668	13%	20	45	3,865	12%	28	43	208	11%	1.5	45
中河内	1,752	9%	17	41	3,194	10%	31	46	302	17%	2.9	48
南河内	1,336	7%	17	41	2,502	8%	32	47	262	14%	3.3	49
堺市	1,744	9%	17	41	2,828	9%	28	43	0	0%	0	41
泉州	1,835	9%	18	42	2,484	8%	24	39	506	28%	4.9	53
大阪市	6,979	35%	22	48	11,656	36%	36	51	472	26%	1.5	44
出典	平成30年6月 厚生労働省 介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資_図表 27-24 有料老人ホーム定員数、軽費ホーム定員数、グループホーム定員数

二次医療圏	有料老人ホーム	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	軽費 ホーム	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	グループ ホーム	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
大阪府	17,875	7.5%	17.0	52	1,350	5.8%	1.3	49	10,586	5.3%	10.1	46
豊能	2,688	15%	22.5	57	235	17%	2.0	53	1,055	10%	8.8	44
三島	1,262	7%	15.0	50	213	16%	2.5	55	565	5%	6.7	40
北河内	2,681	15%	19.7	55	274	20%	2.0	53	1,305	12%	9.6	45
中河内	1,166	7%	11.3	47	30	2%	0.3	45	1,006	10%	9.8	46
南河内	877	5%	11.1	47	158	12%	2.0	53	667	6%	8.5	43
堺市	936	5%	9.3	45	170	13%	1.7	51	1,211	11%	12.1	50
泉州	498	3%	4.8	41	220	16%	2.1	53	781	7%	7.5	42
大阪市	7,767	43%	24.0	59	50	4%	0.2	44	3,996	38%	12.3	50
出典	平成30年6月 厚生労働省 介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資_図表 27-25 サービス付き高齢者専用賃貸住宅(サ高住) 定員数

二次医療圏	サ高住 (全施設)	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	サ高住(特定施設)				サ高住(非特定施設)			
					サ高住 (特定 施設)	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	サ高住 (非特定 施設)	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	231,875		14.2	(7.0)	22,090		1.4	(1.8)	209,785		12.9	(6.8)
大阪府	25,035	10.8%	23.8	64	2,567	11.6%	2.4	56	22,468	10.7%	21.4	63
豊能	2,587	10%	21.6	61	0	0%	0	43	2,587	12%	21.6	63
三島	1,430	6%	17.0	54	60	2%	0.7	46	1,370	6%	16.3	55
北河内	3,211	13%	23.5	63	262	10%	1.9	53	2,949	13%	21.6	63
中河内	3,278	13%	31.9	75	241	9%	2.3	55	3,037	14%	29.5	75
南河内	1,155	5%	14.7	51	0	0%	0	43	1,155	5%	14.7	53
堺市	2,719	11%	27.1	68	0	0%	0	43	2,719	12%	27.1	71
泉州	2,880	12%	27.8	69	0	0%	0	43	2,880	13%	27.8	72
大阪市	7,775	31%	24.0	64	2,004	78%	6.2	77	5,771	26%	17.8	57
出典	サ高住(特定施設)とサ高住(非特定施設)の合計				平成30年6月 国土交通省・厚生労働省 サービス付き高齢者向け住宅 情報提供システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの				平成30年6月 国土交通省・厚生労働省 サービス付き高齢者向け住宅 情報提供システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの			

資_図表 27-26 介護サービス従事看護師数(介護施設、訪問看護)(常勤換算)

二次医療圏	介護サー ビス従事 看護師数	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	看護師数 (施設)				看護師数 (訪問)			
					看護師数 (施設)	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	看護師数 (訪問)	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	171,768		10.5	(2.3)	120,155		7.4	(2.0)	51,613		3.2	(1.1)
大阪府	11,340	6.6%	10.8	51	6,047	5.0%	5.8	42	5,293	10.3%	5.0	68
豊能	1,170	10%	9.8	47	629	10%	5.3	39	541	10%	4.5	63
三島	754	7%	9.0	43	439	7%	5.2	39	315	6%	3.7	55
北河内	1,329	12%	9.7	47	805	13%	5.9	43	524	10%	3.8	56
中河内	1,018	9%	9.9	47	584	10%	5.7	42	433	8%	4.2	60
南河内	896	8%	11.4	54	491	8%	6.2	44	405	8%	5.1	68
堺市	1,126	10%	11.2	53	491	8%	4.9	38	636	12%	6.3	80
泉州	1,125	10%	10.9	51	609	10%	5.9	43	516	10%	5.0	67
大阪市	3,922	35%	12.1	57	1,999	33%	6.2	44	1,923	36%	5.9	76
出典	平成30年6月 厚生労働省 介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資_図表 27-27 介護サービス従事介護職員数(介護施設等、在宅介護)(常勤換算)

二次医療圏	介護サービス従事 介護職員 数	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	介護職員 数 (介護施設 等)	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	介護職員 数 (在宅)	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	1,507,968		92	(12.4)	1,286,309		79	(11.2)	221,659		13.6	(5.6)
大阪府	104,317	6.9%	99	56	73,864	5.7%	70	42	30,453	13.7%	29.0	77
豊能	10,989	11%	92	50	8,407	11%	70	42	2,582	8%	21.6	64
三島	6,661	6%	79	39	5,265	7%	63	35	1,396	5%	16.6	55
北河内	13,157	13%	96	53	9,928	13%	73	45	3,228	11%	23.7	68
中河内	9,777	9%	95	52	6,705	9%	65	38	3,073	10%	29.9	79
南河内	7,254	7%	92	50	5,734	8%	73	45	1,520	5%	19.3	60
堺市	10,324	10%	103	59	6,994	9%	70	42	3,331	11%	33.2	85
泉州	9,215	9%	89	47	6,263	8%	60	34	2,953	10%	28.5	77
大阪市	36,939	35%	114	67	24,568	33%	76	47	12,371	41%	38.2	94
出典	平成30年6月 厚生労働省 介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資_図表 27-28 在宅医療・介護サービス利用者数(月間)

二次医療圏	在宅医療 利用者数	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	訪問看護 利用者数	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	訪問介護 利用者数	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	1,228,040		75	(35)	511,065		31	(13)	1,218,955		75	(26)
大阪府	119,787	9.8%	114	61	52,520	10.3%	50	64	144,181	11.8%	137	74
豊能	13,065	11%	109	60	6,259	12%	52	66	15,513	11%	130	71
三島	6,870	6%	82	52	3,361	6%	40	57	6,978	5%	83	53
北河内	9,898	8%	73	49	6,156	12%	45	61	16,156	11%	118	67
中河内	10,534	9%	102	58	3,633	7%	35	53	13,280	9%	129	71
南河内	8,480	7%	108	59	4,399	8%	56	69	7,968	6%	101	60
堺市	12,278	10%	122	63	6,073	12%	61	72	15,147	11%	151	79
泉州	9,556	8%	92	55	4,181	8%	40	57	14,191	10%	137	74
大阪市	49,106	41%	151	72	18,458	35%	57	70	54,948	38%	170	86
出典	平成30年6月 厚生労働省 介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資_図表 27-29 総人口の推移と医療需要の増減(医療費ベース)

二次医療圏	地域タイプ	総人口(2005→2015→2025)					医療需要推移(医療費ベース) (2005→2015→2025)		
		2005年	2015年	2005→ 15年 増減率	2025年 (推計)	2005→ 25年 増減率	2005→ 15年 増減率	2015→ 25年 増減率	2005→ 25年 増減率
全国		127,767,994	127,094,745	-1%	122,544,102	-4%	13%	5%	18%
大阪府		8,817,166	8,839,469	0%	8,526,202	-3%	17%	5%	22%
豊能	大都市型	1,006,084	1,036,617	3%	1,047,352	4%	20%	10%	32%
三島	大都市型	733,848	746,852	2%	728,795	-1%	20%	8%	29%
北河内	大都市型	1,186,521	1,164,015	-2%	1,077,088	-9%	20%	5%	25%
中河内	大都市型	864,342	842,696	-3%	792,264	-8%	16%	1%	17%
南河内	大都市型	649,601	612,886	-6%	554,175	-15%	13%	3%	16%
堺市	大都市型	830,966	839,310	1%	812,527	-2%	19%	6%	25%
泉州	大都市型	916,993	905,908	-1%	850,739	-7%	14%	3%	18%
大阪市	大都市型	2,628,811	2,691,185	2%	2,663,262	1%	15%	4%	20%
出典	<人口(2005年)>平成17年国勢調査 都道府県・市区町村別統計表(男女別人口,年齢(3区分)・割合,就業者数,居間人口など) <人口(2015年)>平成27年国勢調査 人口等基本集計 平成27年10月 <人口(2025年)>日本の地域別将来推計人口 国立社会保障・人口問題研究所 平成30年3月 ※医療需要は(0~64歳人口)+(65~74歳人口)×3.0+(75歳以上人口)×4.9で算出。								

資_図表 27-30 病院数の推移

二次医療圏	2004年			2017年			2004→2017増減		
	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率	
全国	9,077	7.1	(3.9)	8,412	6.6	(4.6)	-665	-7%	
大阪府	555	6.3	48	521	5.9	48	-34	-6%	
豊能	46	4.6	43	47	4.5	45	1	2%	
三島	38	5.2	45	39	5.2	47	1	3%	
北河内	61	5.1	45	61	5.2	47	0	0%	
中河内	43	5.0	44	38	4.5	45	-5	-12%	
南河内	39	6.0	47	38	6.2	49	-1	-3%	
堺市	47	5.7	46	44	5.2	47	-3	-6%	
泉州	81	8.8	54	75	8.3	54	-6	-7%	
大阪市	200	7.6	51	179	6.7	50	-21	-11%	
出典	<病院数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <病院数2017年>平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月								

資_図表 27-31 診療所数の推移

二次医療圏	2004年			2017年			2004→2017増減	
	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率
全国	97,051	76	(20)	101,471	80	(19)	4,420	5%
大阪府	8,118	92	58	8,400	95	58	282	3%
豊能	914	91	57	973	94	57	59	6%
三島	539	73	49	596	80	50	57	11%
北河内	895	75	50	896	77	48	1	0%
中河内	702	81	53	657	78	49	-45	-6%
南河内	437	67	46	460	75	47	23	5%
堺市	709	85	55	736	88	54	27	4%
泉州	607	66	45	670	74	47	63	10%
大阪市	3,315	126	75	3,412	127	75	97	3%
出典	<診療所数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <診療所数2017年>平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月							

資_図表 27-32 医師数の推移

二次医療圏	2004年			2016年			2004→2016増減	
	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率
全国	270,371	212	(84)	304,759	240	(90)	34,388	13%
大阪府	21,563	245	54	23,886	270	53	2,323	11%
豊能	3,281	326	64	3,538	341	61	257	8%
三島	1,643	224	51	1,914	256	52	271	16%
北河内	2,139	180	46	2,598	223	48	459	21%
中河内	1,410	163	44	1,479	176	43	69	5%
南河内	1,513	233	53	1,720	281	55	207	14%
堺市	1,541	185	47	1,906	227	49	365	24%
泉州	1,704	186	47	1,890	209	47	186	11%
大阪市	8,332	317	63	8,841	329	60	509	6%
出典	<総医師数2004年>平成16年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成16年12月 <総医師数2016年>平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月							

資_図表 27-33 総病床数(精神科を含む)の推移

二次医療圏	2004年			2017年			2004→2017増減	
	数	人口 1万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 1万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率
全国	1,812,554	142	(56)	1,653,234	130	(54)	-159,320	-9%
大阪府	116,330	132	48	109,288	124	49	-7,042	-6%
豊能	10,446	104	43	11,318	109	46	872	8%
三島	9,283	126	47	9,162	123	49	-121	-1%
北河内	13,300	112	45	12,362	106	46	-938	-7%
中河内	8,262	96	42	7,626	90	43	-636	-8%
南河内	8,970	138	49	8,471	138	52	-499	-6%
堺市	13,942	168	55	12,508	149	54	-1,434	-10%
泉州	15,563	170	55	14,976	165	57	-587	-4%
大阪市	36,564	139	50	32,865	122	49	-3,699	-10%
出典	<総病床数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <総病床数2017年>平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月							

資_図表 27-34 一般病床数(病院+診療所)の推移

二次医療圏	2004年			2017年			2004→2017増減	
	数	人口 1万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 1万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率
全国	1,068,821	84	(28)	980,151	77	(26)	-88,670	-8%
大阪府	71,070	81	49	67,770	77	50	-3,300	-5%
豊能	7,064	70	45	7,517	73	48	453	6%
三島	5,444	74	47	5,482	73	49	38	1%
北河内	8,106	68	45	8,282	71	48	176	2%
中河内	5,219	60	42	4,558	54	41	-661	-13%
南河内	5,568	86	51	4,898	80	51	-670	-12%
堺市	6,298	76	47	5,927	71	48	-371	-6%
泉州	5,221	57	41	4,889	54	41	-332	-6%
大阪市	28,150	107	58	26,217	97	58	-1,933	-7%
出典	<一般病床数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <一般病床数2017年>平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月							

資_図表 27-35 療養病床数(病院+診療所)の推移

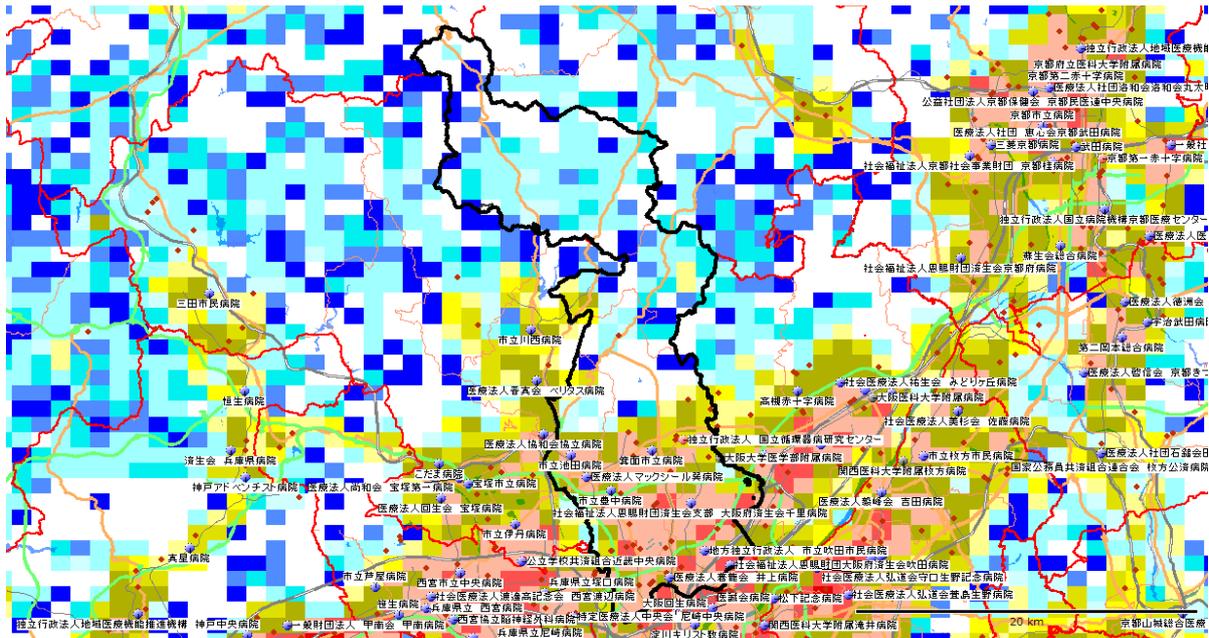
二次医療圏	2004年			2017年			2004→2017増減	
	数	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率
全国	373,823	32	(18)	334,297	20	(11)	-39,526	-11%
大阪府	23,571	36	52	22,138	21	51	-1,433	-6%
豊能	1,022	15	40	1,662	14	44	640	63%
三島	1,213	25	46	1,137	13	44	-76	-6%
北河内	2,161	29	48	2,110	15	46	-51	-2%
中河内	1,180	19	43	1,328	13	43	148	13%
南河内	1,837	37	53	1,867	24	53	30	2%
堺市	4,023	66	69	3,735	37	65	-288	-7%
泉州	4,102	61	66	3,980	38	66	-122	-3%
大阪市	8,033	37	53	6,319	19	49	-1,714	-21%
出典	<一般病床数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <一般病床数2017年>平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月							

27-1. とよの 豊能医療圏

構成市区町村 [豊中市](#) [池田市](#) [吹田市](#) [箕面市](#)
[豊能町](#) [能勢町](#)

※日本医師会JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報を参照可能
<http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

人口分布(1km²区画単位)



1km²区画(1km²メッシュ)で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く(10,000人/km²以上)、黄色系統は中間レベル(1,000~10,000人/km²)、青色系統は人口が少ない(1,000人/km²未満)。白色は非居住地。
 出所: 国勢調査(平成22年、総務省) 地図情報GIS Market Analyzer ver. 3.7 地図 PAREAシリーズ



(豊能医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

【地域の概要】

*人口、面積など： 豊能(豊中市)は、総人口約1,037千人(2015年)、面積276km²、人口密度は3,761人/km²の大都市型二次医療圏である。

*人口の将来予測： 豊能の総人口は2025年に1,047千人へと増加し(2015年比+1%)、2040年に996千人へと減少する(2025年比-5%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の120千人が、2025年にかけて180千人へと増加し(2015年比+50%)、2040年には186千人へと増加する(2025年比+3%)ことが予想される。

*医療費と介護給付費： 豊能の一人当たり医療費(国保)は358千円(偏差値53)、介護給付費は247千円(偏差値49)であり、医療費はやや高く、介護給付費は全国平均レベルである。

【医療の現状】

*入院医療の充実度： 豊能の一人当たり急性期医療密度指数は1.09、一人当たり慢性期医療密度指数は0.57で、急性期の医療は全国平均レベルであるが、慢性期の医療はかなり少ない。

*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が61(病院医師数62、診療所医師数55)と、総医師数、病院医師数ともに多い。総看護師数の偏差値は48と全国平均レベルである。

*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は50で、一般病床は全国平均レベルである。全身麻酔数の偏差値は45とやや少ない。豊能には、年間全身麻酔件数が2000例以上の市立豊中病院(Ⅲ群)、大阪大学医学部附属病院(Ⅰ群・救命)、1000例以上の市立池田病院(Ⅲ群)、箕面市立病院(Ⅲ群)、大阪府済生会吹田病院(Ⅲ群)、市立吹田市民病院(Ⅲ群)、大阪府済生会千里病院(Ⅲ群・救命)、国立循環器病研究センター(Ⅱ群)、500例以上の関西メディカル病院(Ⅲ群)がある。

*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は45と療養病床数はやや少ない。

*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値49と全国平均レベルであり、回復期病床数は偏差値55とやや多い。

*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は47で精神病床数はやや少ない。

*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は57で診療所数は多い。

【介護施設や在宅ケアの現状】

*介護施設の現状： 豊能の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、12,568人(75歳以上1,000人当たりの偏差値51)と全国平均レベルである。そのうち、介護保険施設の定員が6,003床(偏差値41)、高齢者住宅等が6,565床(偏差値58)である。介護保険施設は全国平均レベルを下回るが、高齢者住宅等は全国平均レベルを上回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、8,407人(75歳以上1,000人当たりの偏差値42)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設43、特別養護老人ホーム47、介護療養型医療施設なし(偏差値41)、有料老人ホーム57、軽費ホーム53、グループホーム44、サ高住61である。

*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値64と多く、在宅療養支援病院は偏差値47とやや少ない。また、訪問看護ステーションは偏差値62と多い。介護職員(在宅)の合計は、2,582人(75歳以上1,000人当たりの偏差値64)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを上回る。

*介護の2025年の需要予測： 2025年の介護充足度指数は-41%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、多くの高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

(豊能医療圏) 2. 推移

【人口と医療需要】

豊能医療圏の総人口は、2005年1,006,084人が、2015年に1,036,617人と3%増加し、2025年の人口が1,047,352人と予測され、2005年→2025年の間に4%程度の増加が予測されている。

医療の需要(医療費ベース)は、2005年から2015年に20%増加し、2015年から2025年にかけて10%程度の増加が予測される。

【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

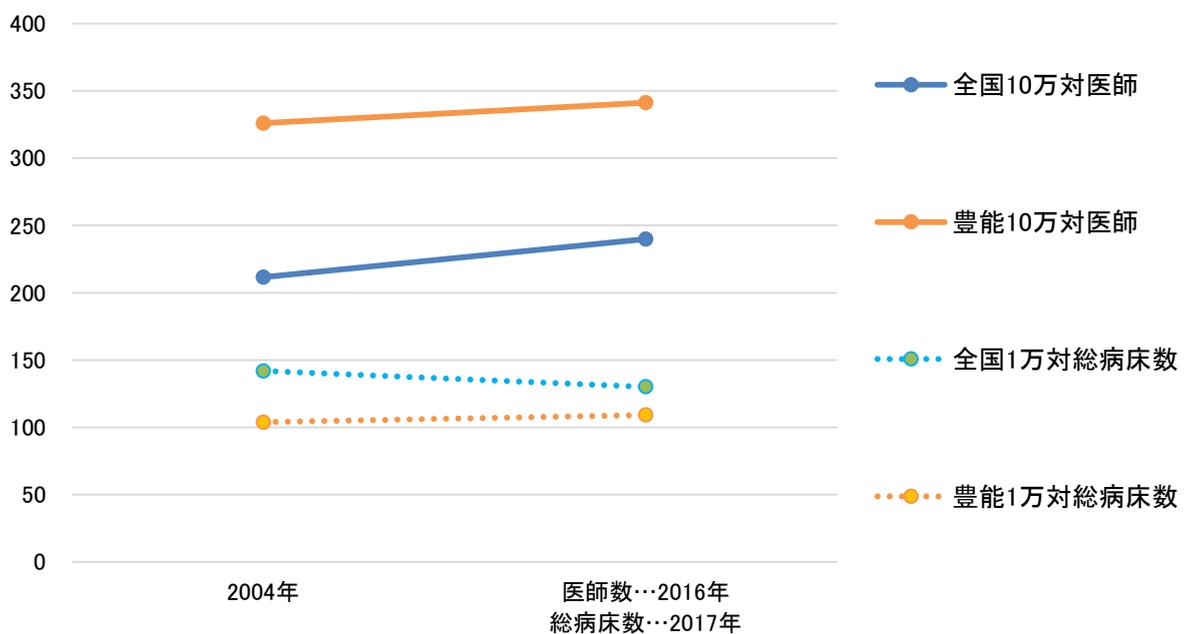
2004年の病院数が46(人口10万人当たり4.6病院(全国平均7.1)偏差値43)であったが、2017年に47(人口10万人当たり4.5病院(全国平均6.6)偏差値45)となり、13年間で1病院が増加した。

2004年の診療所数が914(人口10万人当たり91診療所(全国平均76)偏差値57)であったが、2017年に973(人口10万人当たり94診療所(全国平均80)偏差値57)と、59診療所が増加した。

2004年の総病床数が10,446床(人口1万人当たり104(全国平均142)偏差値43)であったが、2017年に11,318床(人口1万人当たり109(全国平均130)偏差値46)と、872床の増加、率にして8%の増加(全国平均9%の減少)が見られた。

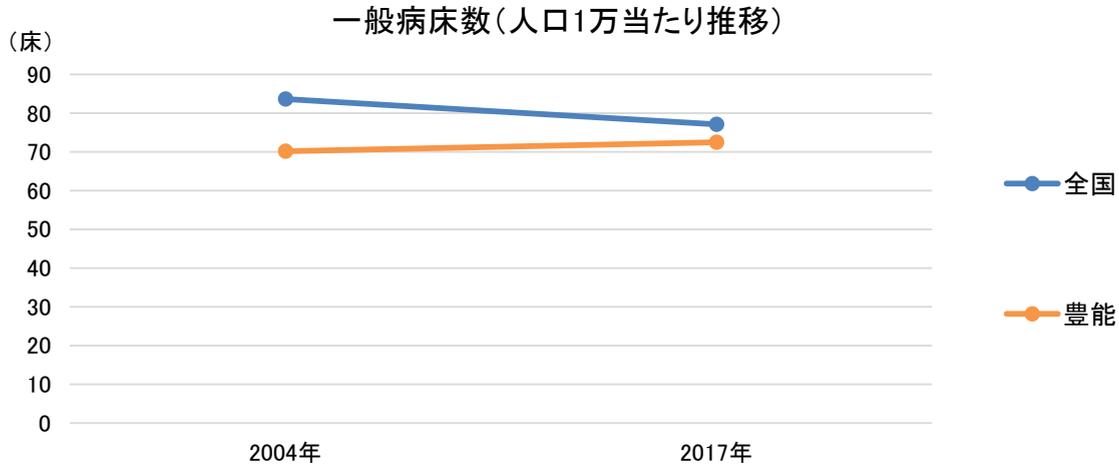
2004年には病院と診療所合わせての総医師数が3,281人(人口10万人当たり326人(全国平均212人)偏差値64)であったが、2016年に3,538人(人口10万人当たり341人(全国平均240人)偏差値61)と、257人の増加、率にして8%の増加(全国平均13%の増加)が見られた。

人口当たり医師数・総病床数の推移



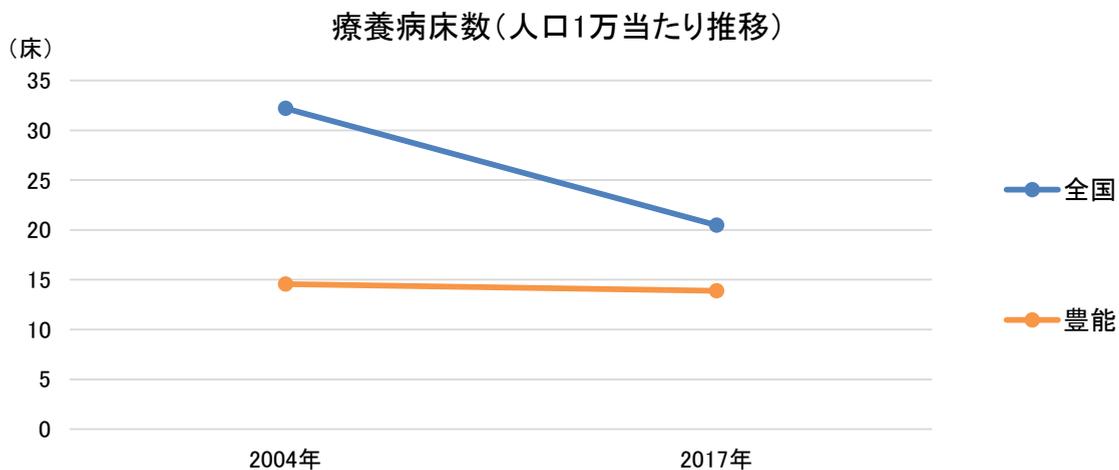
【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が7,064床(人口1万人当たり70(全国平均84)偏差値45)であったが、2017年に7,517床(人口1万人当たり73(全国平均77)偏差値48)と、453床の増加、率にして6%の増加(全国平均8%の減少)が見られた。



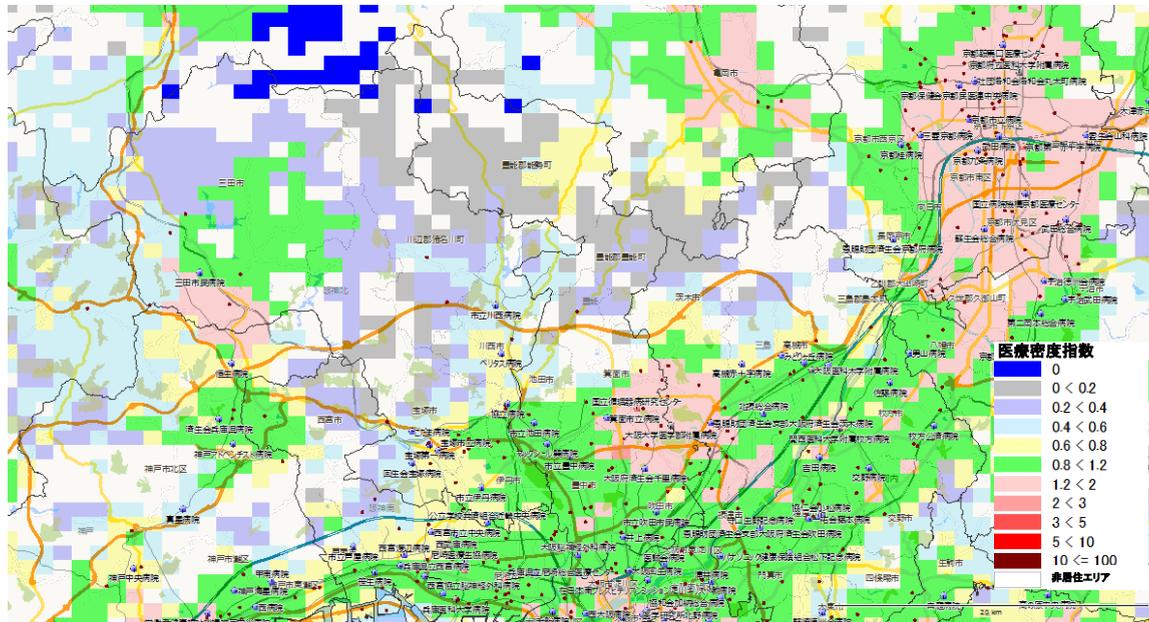
【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が1,022床(75歳以上1,000人当たり15(全国平均32)偏差値40)であったが、2017年に1,662床(75歳以上1,000人当たり14(全国平均20)偏差値44)と、640床の増加、率にして63%の増加(全国平均11%の減少)が見られた。



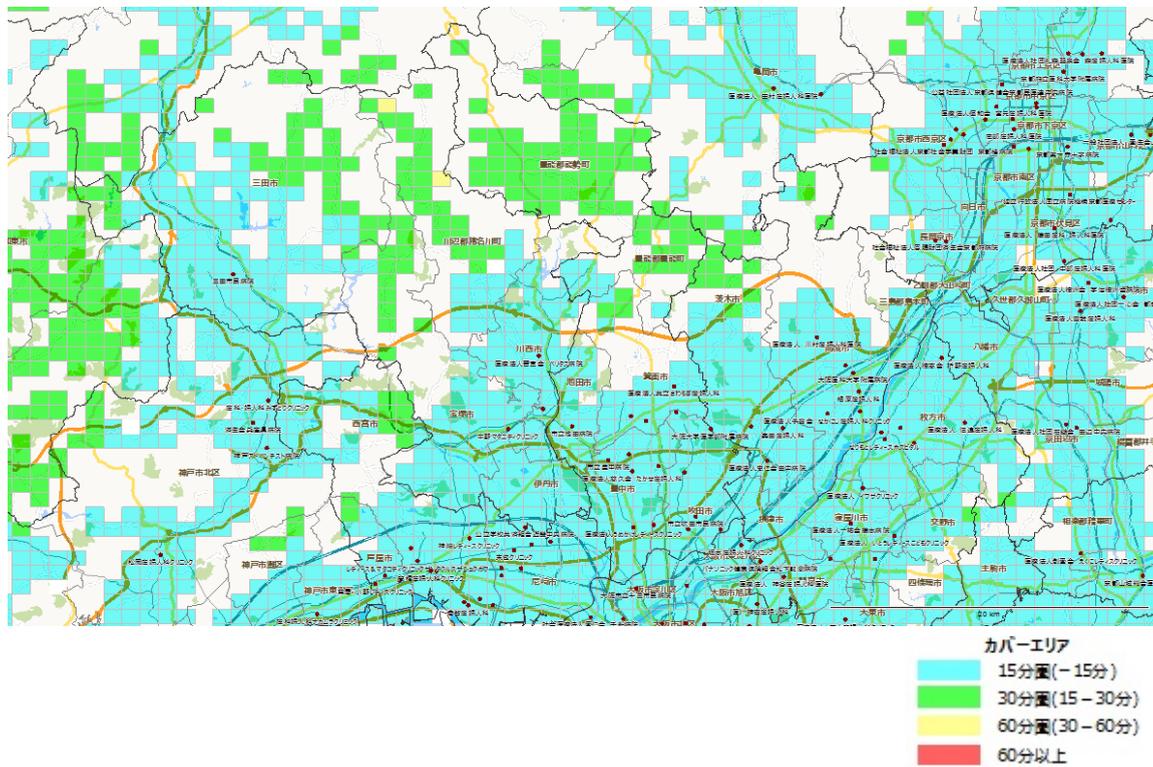
(豊能医療圏) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表27-1-1 急性期医療密度指数マップ



図表27-1-2 分娩医療機関への所用運転時間 (カバーエリア)

※全国1km²メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関(病院と有床診療所)への運転時間を計算し、1km²メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの(「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照(日医総研WP no. 400))

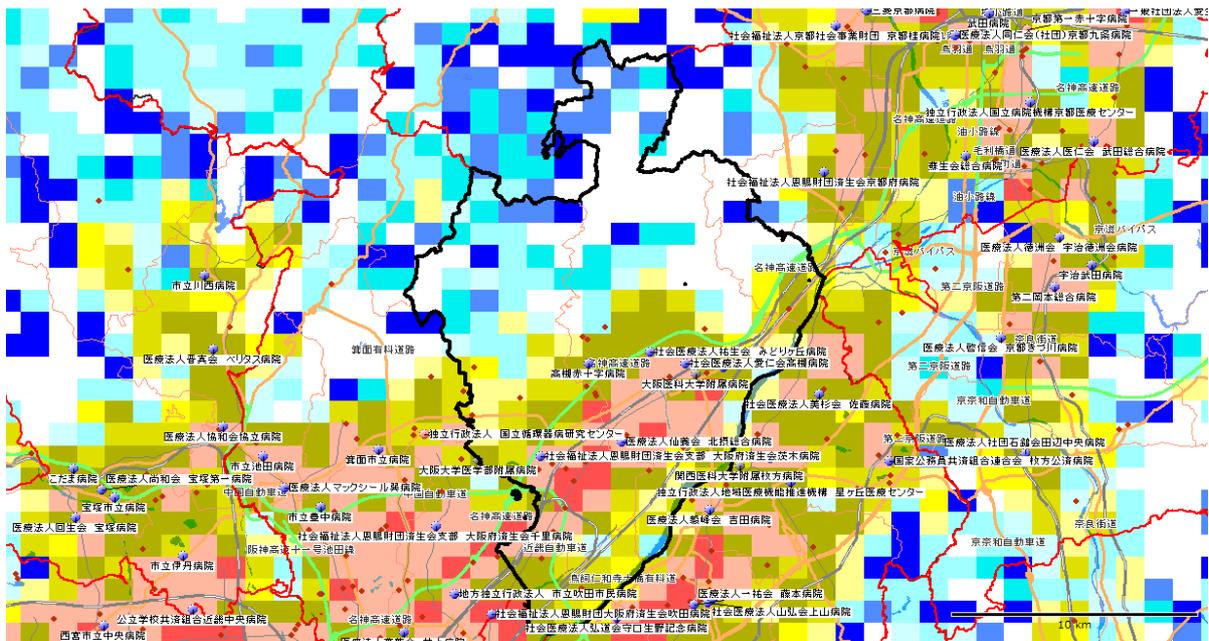


27-2. みしま 三島医療圏

構成市区町村 [高槻市](#) [茨木市](#) [摂津市](#) [島本町](#)

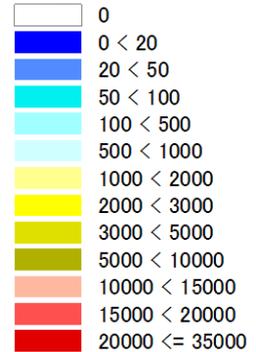
※日本医師会JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報を参照可能
<http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

人口分布 (1km²区画単位)



1km²区画 (1km²メッシュ) で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く (10,000人/km²以上)、黄色系統は中間レベル (1,000~10,000人/km²)、青色系統は人口が少ない (1,000人/km²未満)。白色は非居住地。
 出所：国勢調査 (平成22年、総務省) 地図情報GIS Market Analyzer ver. 3.7 地図 PAREAシリーズ

区画内人口 (1平方キロ)



DPC病院



(三島医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

【地域の概要】

*人口、面積など： 三島(高槻市)は、総人口約747千人(2015年)、面積213km²、人口密度は3,499人/km²の大都市型二次医療圏である。

*人口の将来予測： 三島の総人口は2025年に729千人へと減少し(2015年比-2%)、2040年に664千人へと減少する(2025年比-9%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の84千人が、2025年にかけて131千人へと増加し(2015年比+56%)、2040年には125千人へと減少する(2025年比-5%)ことが予想される。

*医療費と介護給付費： 三島の一人当たり医療費(国保)は379千円(偏差値57)、介護給付費は208千円(偏差値37)であり、医療費は高いが、介護給付費は低い。

【医療の現状】

*入院医療の充実度： 三島の一人当たり急性期医療密度指数は1、一人当たり慢性期医療密度指数は0.62で、急性期の医療は全国平均レベルであるが、慢性期の医療は少ない。

*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が52(病院医師数52、診療所医師数50)と、総医師数、病院医師数、診療所医師数ともにほぼ全国平均レベルである。総看護師数の偏差値は47とやや少ない。

*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は50で、一般病床は全国平均レベルである。全身麻酔数の偏差値は43と少ない。三島には、年間全身麻酔件数が2000例以上の第一東和会病院(Ⅲ群)、高槻病院(Ⅲ群)、大阪医科大学附属病院(I群)、1000例以上の北摂総合病院(Ⅲ群)、高槻赤十字病院(Ⅲ群)、500例以上の大阪府済生会茨木病院(Ⅲ群)がある。

*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は45と療養病床数はやや少ない。

*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値51と全国平均レベルであり、回復期病床数は偏差値54とやや多い。

*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は54で精神病床数はやや多い。

*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は50で診療所数は全国平均レベルである。

【介護施設や在宅ケアの現状】

*介護施設の現状： 三島の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、7,531人(75歳以上1,000人当たりの偏差値41)と全国平均レベルを下回る。そのうち、介護保険施設の定員が4,061床(偏差値39)、高齢者住宅等が3,470床(偏差値49)である。介護保険施設は全国平均レベルを下回るが、高齢者住宅等は全国平均レベルである。また、介護職員(介護施設等)の合計は、5,265人(75歳以上1,000人当たりの偏差値35)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設44、特別養護老人ホーム43、介護療養型医療施設43、有料老人ホーム50、軽費ホーム55、グループホーム40、サ高住54である。

*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値69と非常に多く、在宅療養支援病院は偏差値50と全国平均レベルである。また、訪問看護ステーションは偏差値50と全国平均レベルである。介護職員(在宅)の合計は、1,396人(75歳以上1,000人当たりの偏差値55)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルをやや上回る。

*介護の2025年の需要予測： 2025年の介護充足度指数は-73%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、非常に多くの高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

(三島医療圏) 2. 推移

【人口と医療需要】

三島医療圏の総人口は、2005年733,848人が、2015年に746,852人と2%増加し、2025年の人口が728,795人と予測され、2005年→2025年の間に1%程度の減少が予測されている。

医療の需要（医療費ベース）は、2005年から2015年に20%増加し、2015年から2025年にかけて8%程度の増加が予測される。

【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

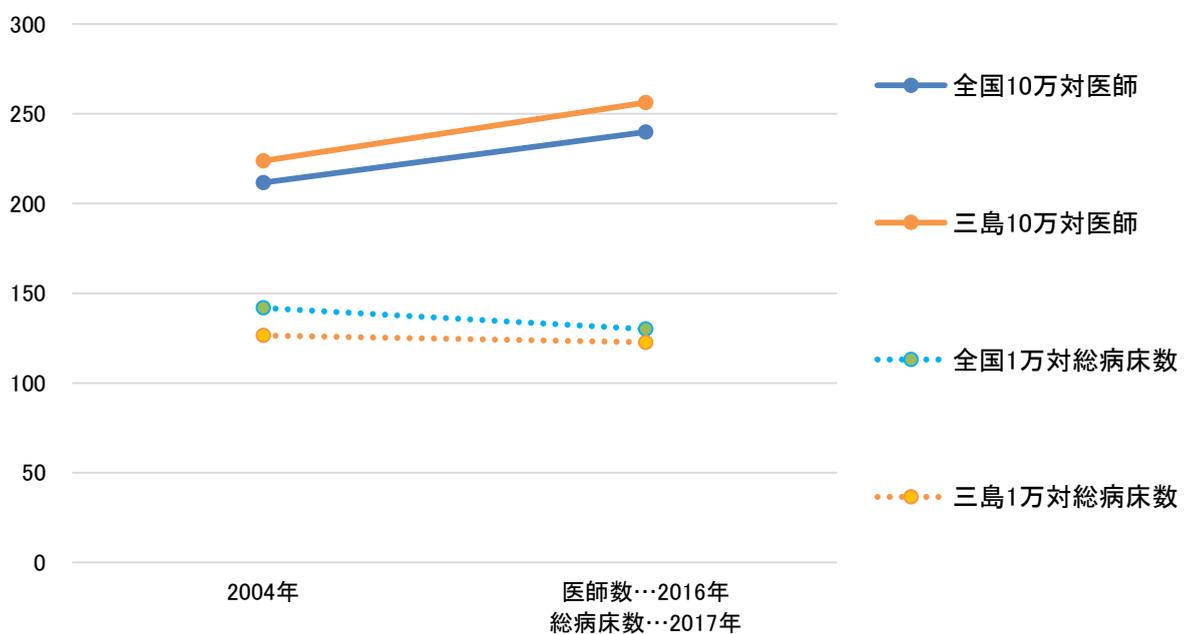
2004年の病院数が38(人口10万人当たり5.2病院(全国平均7.1)偏差値45)であったが、2017年に39(人口10万人当たり5.2病院(全国平均6.6)偏差値47)となり、13年間で1病院が増加した。

2004年の診療所数が539(人口10万人当たり73診療所(全国平均76)偏差値49)であったが、2017年に596(人口10万人当たり80診療所(全国平均80)偏差値50)と、57診療所が増加した。

2004年の総病床数が9,283床(人口1万人当たり126(全国平均142)偏差値47)であったが、2017年に9,162床(人口1万人当たり123(全国平均130)偏差値49)と、121床の減少、率にして1%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。

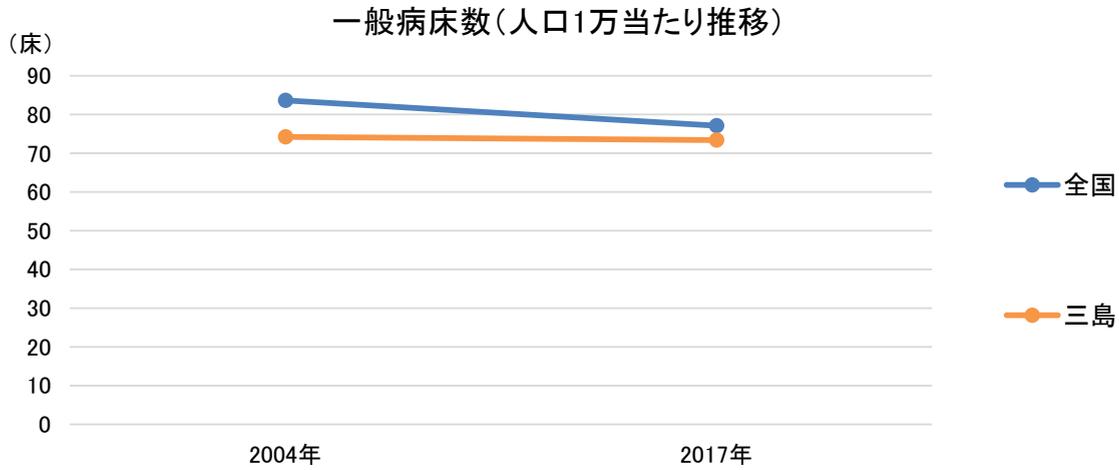
2004年には病院と診療所合わせての総医師数が1,643人(人口10万人当たり224人(全国平均212人)偏差値51)であったが、2016年に1,914人(人口10万人当たり256人(全国平均240人)偏差値52)と、271人の増加、率にして16%の増加(全国平均13%の増加)が見られた。

人口当たり医師数・総病床数の推移



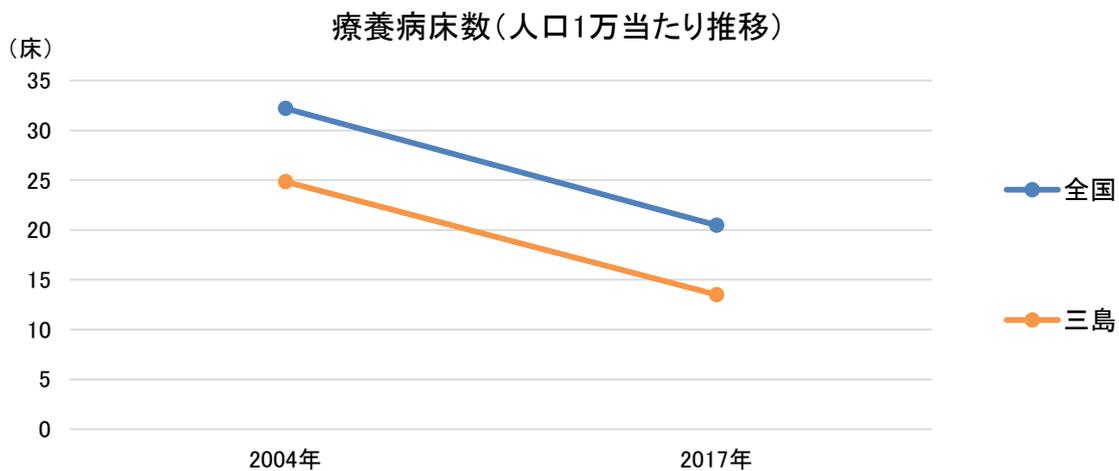
【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が5,444床(人口1万人当たり74(全国平均84)偏差値47)であったが、2017年に5,482床(人口1万人当たり73(全国平均77)偏差値49)と、38床の増加、率にして1%の増加(全国平均8%の減少)が見られた。



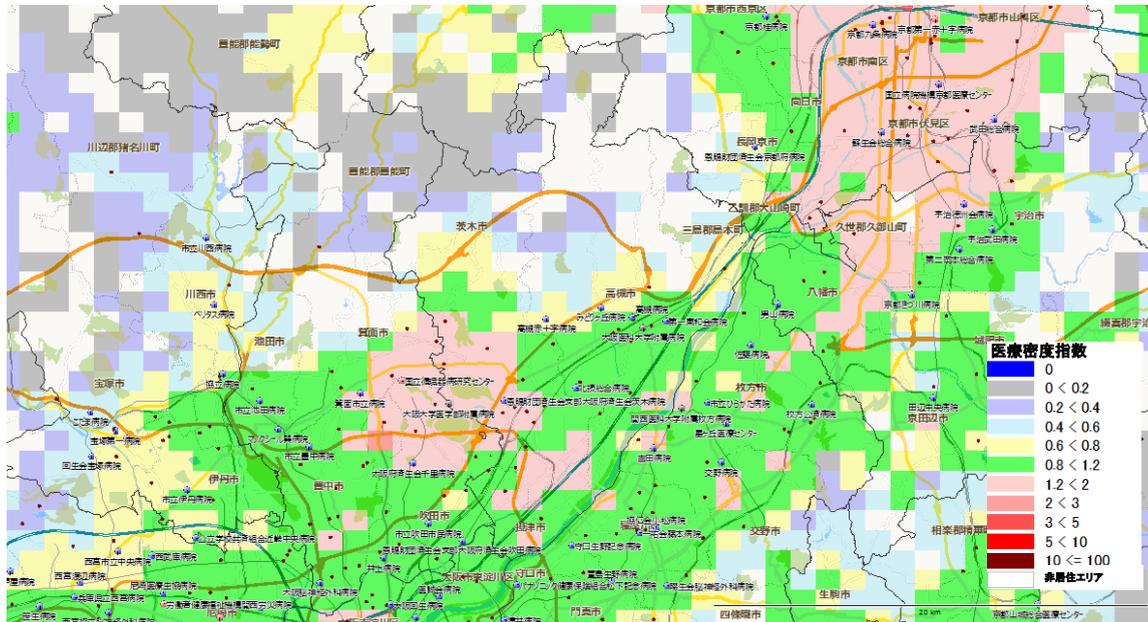
【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が1,213床(75歳以上1,000人当たり25(全国平均32)偏差値46)であったが、2017年に1,137床(75歳以上1,000人当たり13(全国平均20)偏差値44)と、76床の減少、率にして6%の減少(全国平均11%の減少)が見られた。



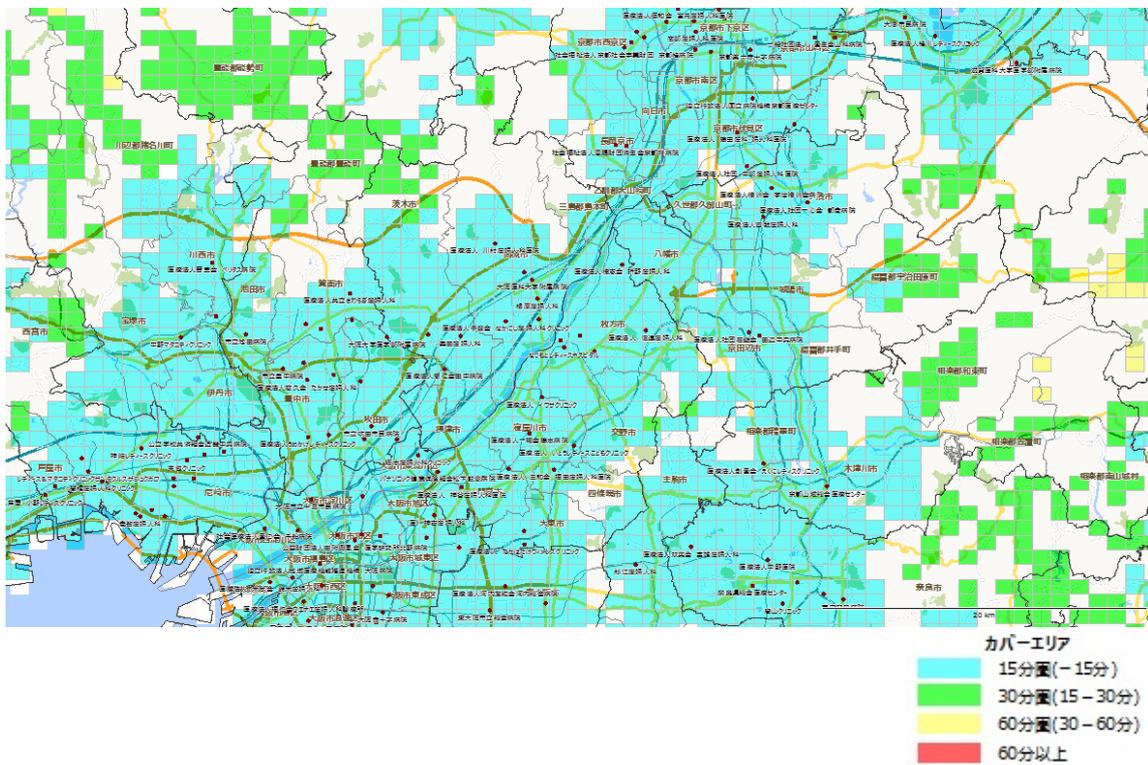
(三島医療圏) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表27-2-1 急性期医療密度指数マップ



図表27-2-2 分娩医療機関への所用運転時間 (カバーエリア)

※全国1km²メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関(病院と有床診療所)への運転時間を計算し、1km²メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの(「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照(日医総研WP no. 400))

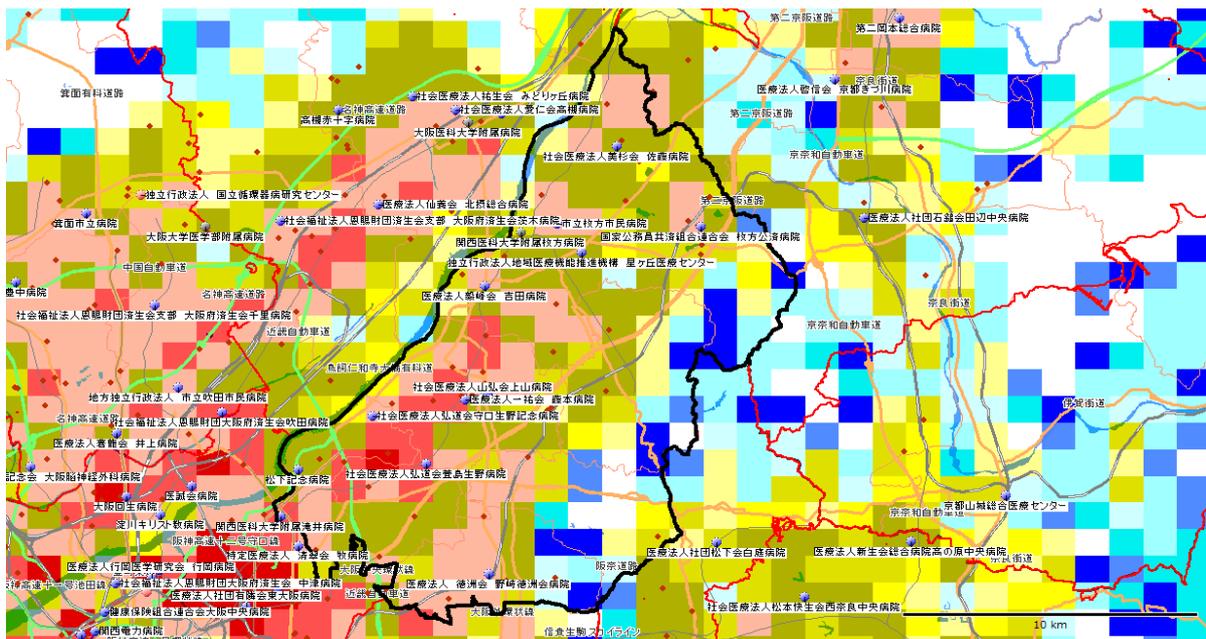


27-3. きたかわち 北河内医療圏

構成市区町村 [守口市](#) [枚方市](#) [寝屋川市](#) [大東市](#)
[門真市](#) [四條畷市](#) [交野市](#)

※日本医師会JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報を参照可能
<http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

人口分布 (1km²区画単位)



1km²区画 (1km²メッシュ) で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く (10,000人/km²以上)、黄色系統は中間レベル (1,000~10,000人/km²)、青色系統は人口が少ない (1,000人/km²未満)。白色は非居住地。
 出所: 国勢調査 (平成22年、総務省) 地図情報GIS Market Analyzer ver. 3.7 地図 PAREAシリーズ

区画内人口(1平方キロ)



DPC病院



(北河内医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

【地域の概要】

*人口、面積など： 北河内(守口市)は、総人口約1,164千人(2015年)、面積177km²、人口密度は6,564人/km²の大都市型二次医療圏である。

*人口の将来予測： 北河内の総人口は2025年に1,077千人へと減少し(2015年比-7%)、2040年に894千人へと減少する(2025年比-17%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の136千人が、2025年にかけて213千人へと増加し(2015年比+57%)、2040年には195千人へと減少する(2025年比-8%)ことが予想される。

*医療費と介護給付費： 北河内の一人当たり医療費(国保)は358千円(偏差値53)、介護給付費は241千円(偏差値47)であり、医療費はやや高いが、介護給付費はやや低い。

【医療の現状】

*入院医療の充実度： 北河内の一人当たり急性期医療密度指数は1、一人当たり慢性期医療密度指数は0.68で、急性期の医療は全国平均レベルであるが、慢性期の医療は少ない。

*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が48(病院医師数48、診療所医師数48)と、総医師数、病院医師数、診療所医師数ともにほぼ全国平均レベルである。総看護師数の偏差値は46とやや少ない。

*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は49で、一般病床は全国平均レベルである。全身麻酔数の偏差値は45とやや少ない。北河内には、年間全身麻酔件数が2000例以上の関西医科大学総合医療センター(Ⅲ群・救命)、関西医科大学附属病院(Ⅰ群・救命)、1000例以上のJCHO星ヶ丘医療センター(Ⅲ群)、松下記念病院(Ⅲ群)、市立ひらかた病院(Ⅲ群)、500例以上の枚方公済病院(Ⅲ群)、嚙生会脳神経外科病院(Ⅲ群)、交野病院(Ⅲ群)、守口生野記念病院(Ⅲ群)、佐藤病院(Ⅲ群)、野崎徳洲会病院(Ⅲ群)、関西医科大学香里病院(Ⅲ群)、小松病院(Ⅲ群)がある。

*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は46と療養病床数はやや少ない。

*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値48と全国平均レベルであり、回復期病床数は偏差値51と全国平均レベルである。

*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は45で精神病床数はやや少ない。

*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は48で診療所数は全国平均レベルである。

【介護施設や在宅ケアの現状】

*介護施設の現状： 北河内の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、14,212人(75歳以上1,000人当たりの偏差値50)と全国平均レベルである。そのうち、介護保険施設の定員が6,741床(偏差値40)、高齢者住宅等が7,471床(偏差値58)である。介護保険施設は全国平均レベルを下回るが、高齢者住宅等は全国平均レベルを上回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、9,928人(75歳以上1,000人当たりの偏差値45)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルをやや下回る。

施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設45、特別養護老人ホーム43、介護療養型医療施設45、有料老人ホーム55、軽費ホーム53、グループホーム45、サ高住63である。

*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値54とやや多く、在宅療養支援病院は偏差値58と多い。また、訪問看護ステーションは偏差値55とやや多い。介護職員(在宅)の合計は、3,228人(75歳以上1,000人当たりの偏差値68)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを大きく上回る。

*介護の2025年の需要予測： 2025年の介護充足度指数は-56%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、多くの高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

(北河内医療圏) 2. 推移

【人口と医療需要】

北河内医療圏の総人口は、2005年1,186,521人が、2015年に1,164,015人と2%減少し、2025年の人口が1,077,088人と予測され、2005年→2025年の間に9%程度の減少が予測されている。

医療の需要(医療費ベース)は、2005年から2015年に20%増加し、2015年から2025年にかけて5%程度の増加が予測される。

【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

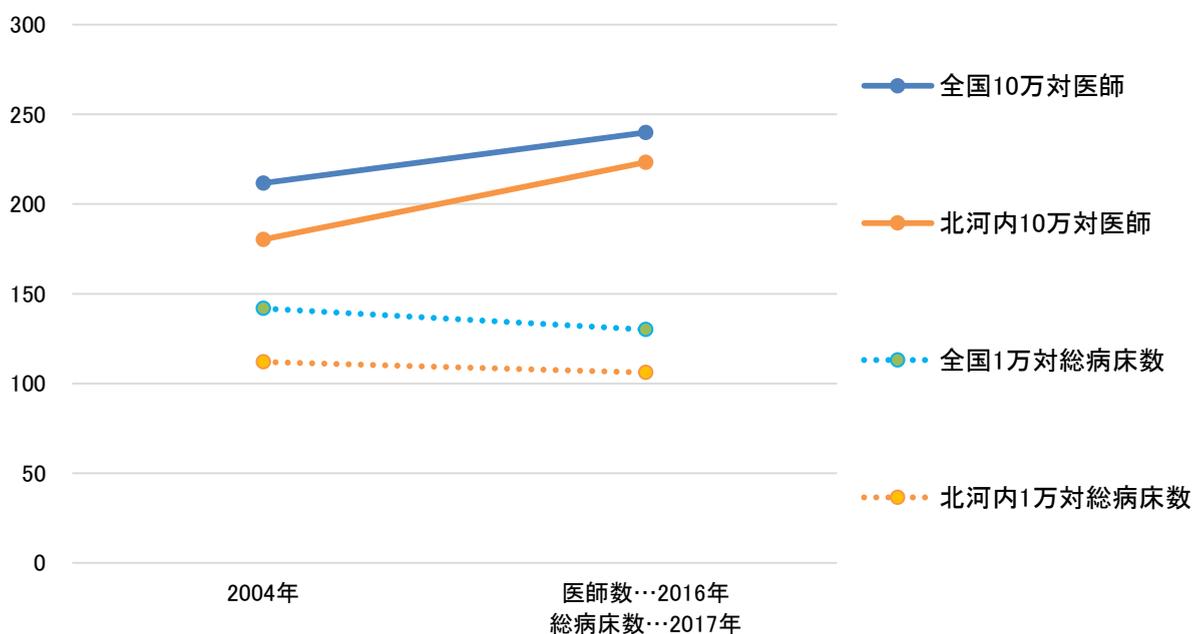
2004年の病院数が61(人口10万人当たり5.1病院(全国平均7.1)偏差値45)であったが、2017年に61(人口10万人当たり5.2病院(全国平均6.6)偏差値47)となり、13年間で増減がなかった。

2004年の診療所数が895(人口10万人当たり75診療所(全国平均76)偏差値50)であったが、2017年に896(人口10万人当たり77診療所(全国平均80)偏差値48)と、1診療所が増加した。

2004年の総病床数が13,300床(人口1万人当たり112(全国平均142)偏差値45)であったが、2017年に12,362床(人口1万人当たり106(全国平均130)偏差値46)と、938床の減少、率にして7%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。

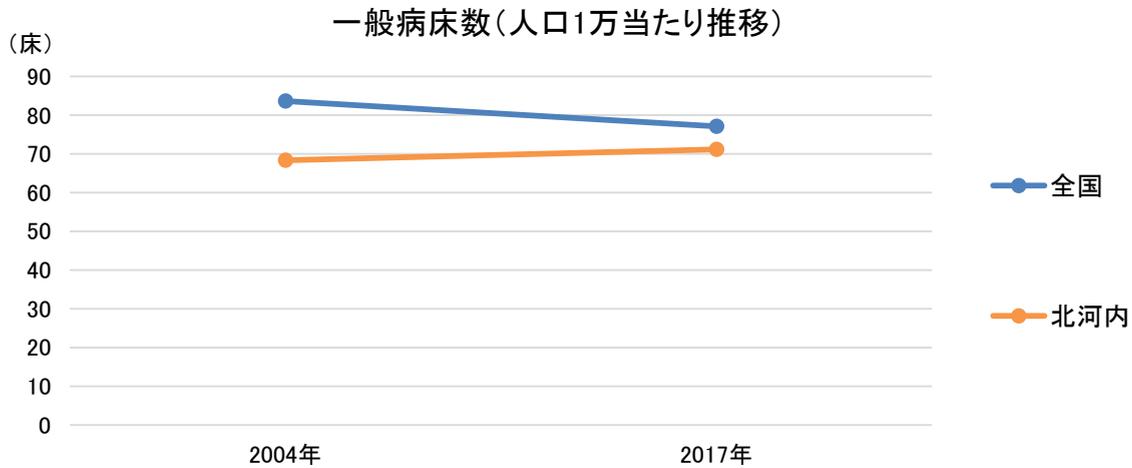
2004年には病院と診療所合わせての総医師数が2,139人(人口10万人当たり180人(全国平均212人)偏差値46)であったが、2016年に2,598人(人口10万人当たり223人(全国平均240人)偏差値48)と、459人の増加、率にして21%の増加(全国平均13%の増加)が見られた。

人口当たり医師数・総病床数の推移



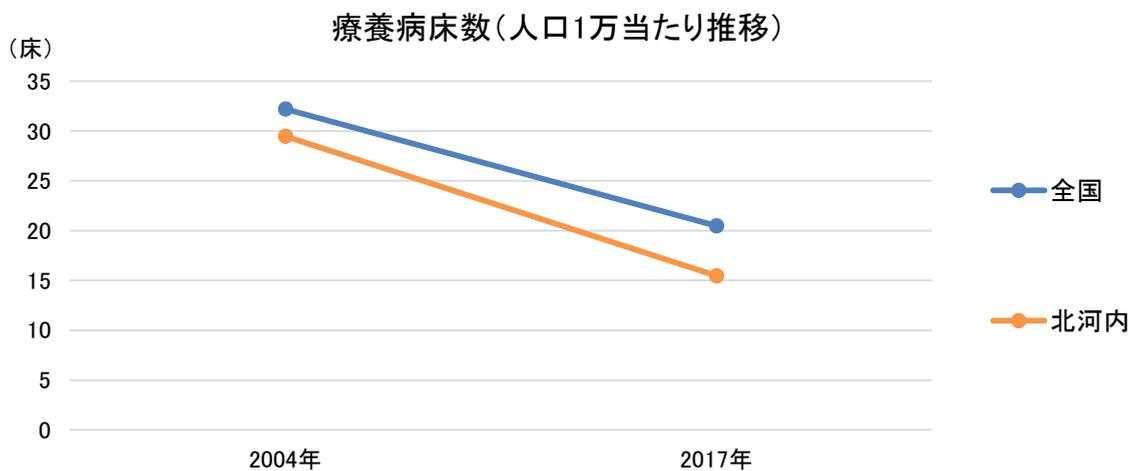
【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が8,106床(人口1万人当たり68(全国平均84)偏差値45)であったが、2017年に8,282床(人口1万人当たり71(全国平均77)偏差値48)と、176床の増加、率にして2%の増加(全国平均8%の減少)が見られた。



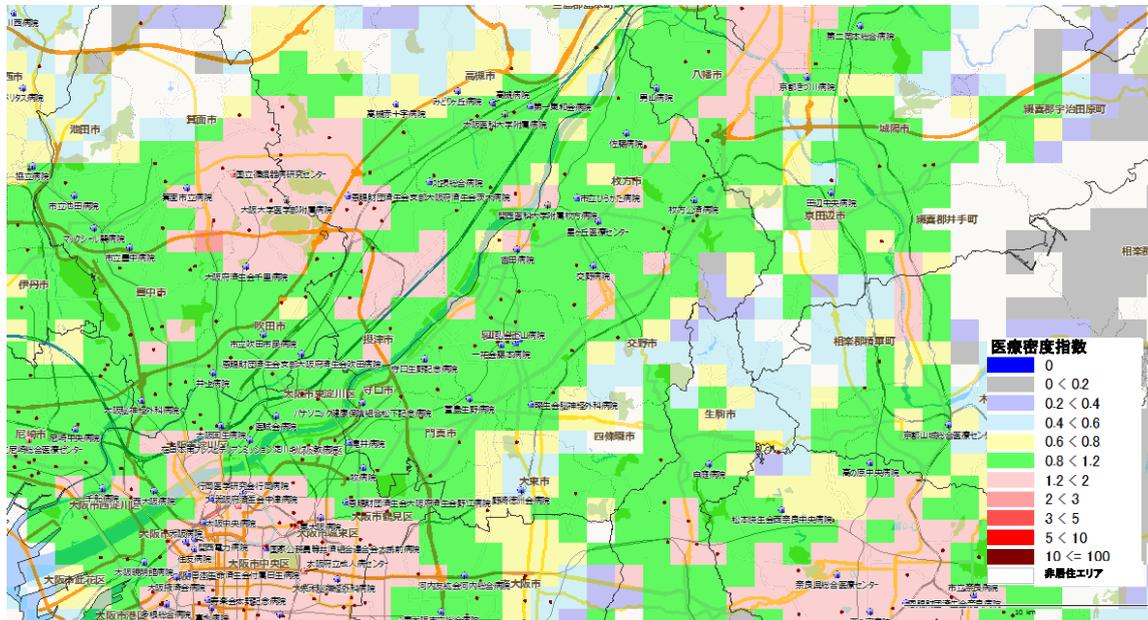
【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が2,161床(75歳以上1,000人当たり29(全国平均32)偏差値48)であったが、2017年に2,110床(75歳以上1,000人当たり15(全国平均20)偏差値46)と、51床の減少、率にして2%の減少(全国平均11%の減少)が見られた。



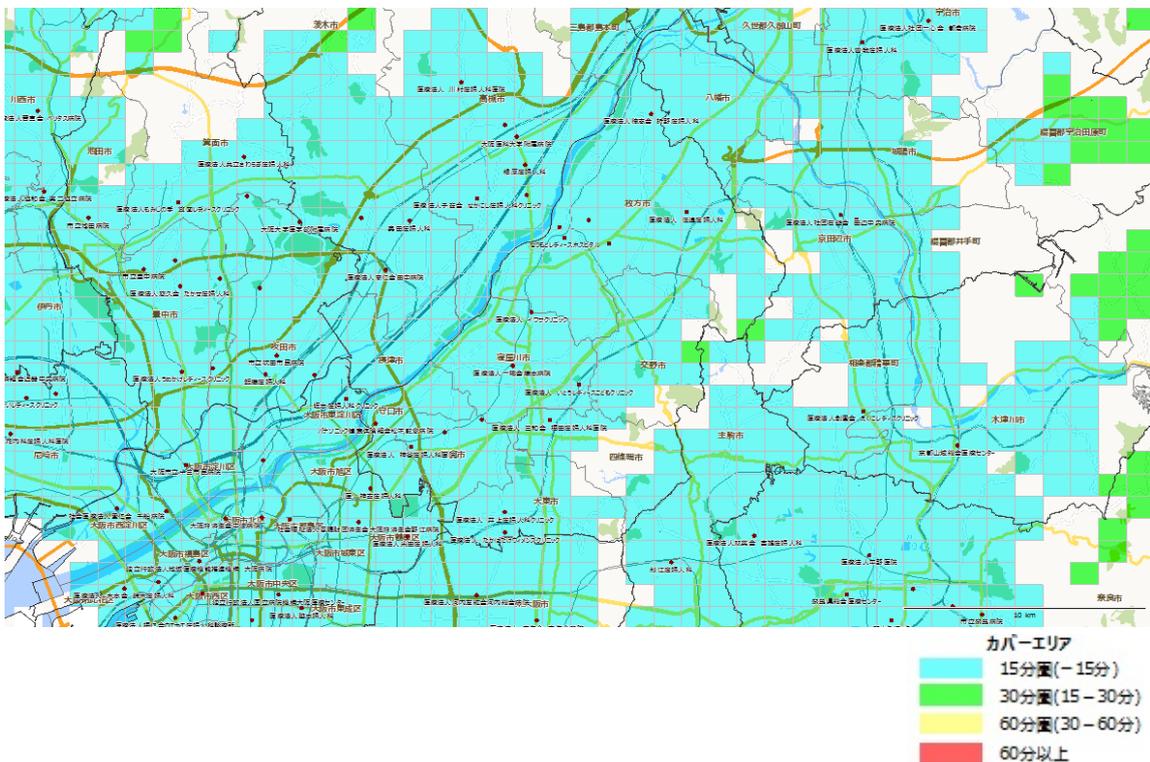
(北河内医療圏) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表27-3-1 急性期医療密度指数マップ



図表27-3-2 分娩医療機関への所用運転時間（カバーエリア）

※全国1km²メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関（病院と有床診療所）への運転時間を計算し、1km²メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの（「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照（日医総研WP no. 400）」）

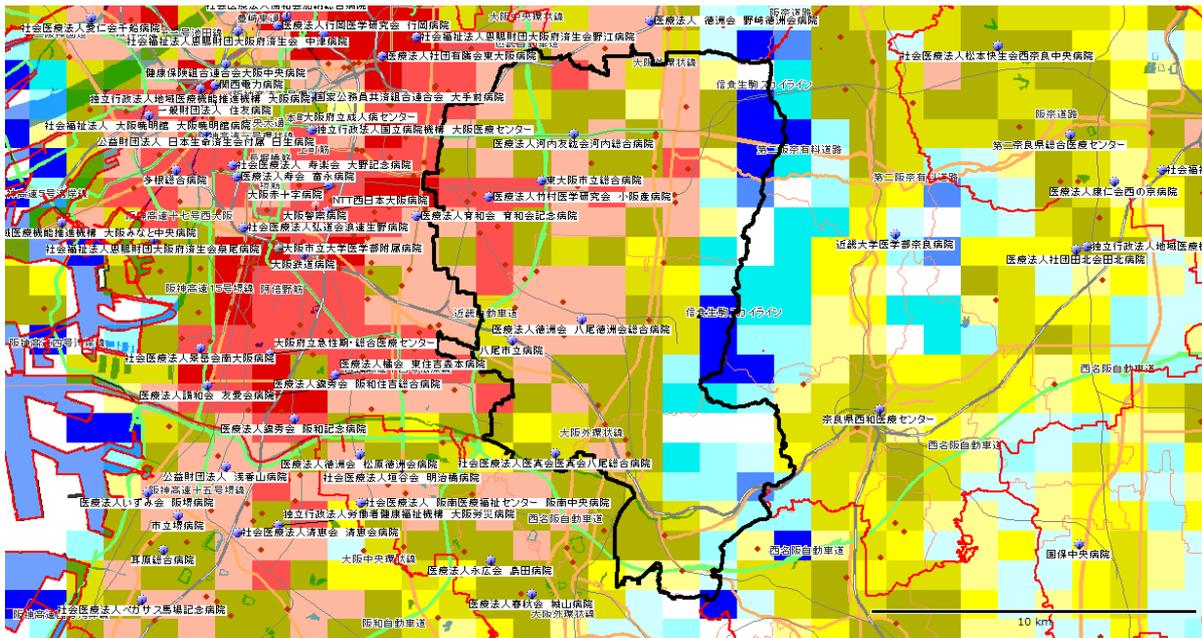


なかかわち 27-4. 中河内医療圏

構成市区町村 [八尾市](#) [柏原市](#) [東大阪市](#)

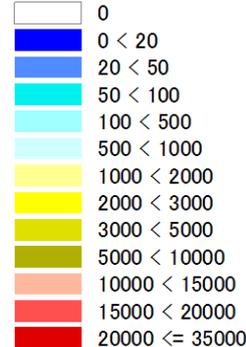
※日本医師会JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報を参照可能
<http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

人口分布 (1km²区画単位)



1km²区画 (1km²メッシュ) で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く (10,000人/km²以上)、黄色系統は中間レベル (1,000~10,000人/km²)、青色系統は人口が少ない (1,000人/km²未満)。白色は非居住地。
 出所: 国勢調査 (平成22年、総務省) 地図情報GIS Market Analyzer ver. 3.7 地図 PAREAシリーズ

区画内人口 (1平方キロ)



DPC病院



(中河内医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

【地域の概要】

*人口、面積など： 中河内(八尾市)は、総人口約843千人(2015年)、面積129km²、人口密度は6,541人/km²の大都市型二次医療圏である。

*人口の将来予測： 中河内の総人口は2025年に792千人へと減少し(2015年比-6%)、2040年に689千人へと減少する(2025年比-13%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の103千人が、2025年にかけて143千人へと増加し(2015年比+39%)、2040年には124千人へと減少する(2025年比-13%)ことが予想される。

*医療費と介護給付費： 中河内の一人当たり医療費(国保)は360千円(偏差値53)、介護給付費は266千円(偏差値54)であり、医療費、介護給付費ともにやや高い。

【医療の現状】

*入院医療の充実度： 中河内の一人当たり急性期医療密度指数は0.87、一人当たり慢性期医療密度指数は1.15で、急性期の医療も慢性期の医療も全国平均レベルである。

*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が43(病院医師数41、診療所医師数49)と、総医師数、病院医師数はともに少ない。総看護師数の偏差値は41と少ない。

*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は42で、一般病床は少ない。全身麻酔数の偏差値は43と少ない。中河内には、年間全身麻酔件数が2000例以上の八尾市立病院(Ⅲ群)、市立東大阪医療センター(Ⅲ群)、1000例以上の八尾徳洲会総合病院(Ⅲ群)、500例以上の医真会八尾総合病院(Ⅲ群)、河内総合病院(Ⅲ群)、若草第一病院(Ⅲ群)がある。

*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は45と療養病床数はやや少ない。

*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値44と少なく、回復期病床数は偏差値46とやや少ない。

*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は47で精神病床数はやや少ない。

*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は49で診療所数は全国平均レベルである。

【介護施設や在宅ケアの現状】

*介護施設の現状： 中河内の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、10,728人(75歳以上1,000人当たりの偏差値50)と全国平均レベルである。そのうち、介護保険施設の定員が5,248床(偏差値42)、高齢者住宅等が5,480床(偏差値57)である。介護保険施設は全国平均レベルを下回るが、高齢者住宅等は全国平均レベルを上回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、6,705人(75歳以上1,000人当たりの偏差値38)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設41、特別養護老人ホーム46、介護療養型医療施設48、有料老人ホーム47、軽費ホーム45、グループホーム46、サ高住75である。

*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値63と多く、在宅療養支援病院は偏差値49と全国平均レベルである。また、訪問看護ステーションは偏差値61と多い。介護職員(在宅)の合計は、3,073人(75歳以上1,000人当たりの偏差値79)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを大きく上回る。

*介護の2025年の需要予測： 2025年の介護充足度指数は-58%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、多くの高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

(中河内医療圏) 2. 推移

【人口と医療需要】

中河内医療圏の総人口は、2005年864,342人が、2015年に842,696人と3%減少し、2025年の人口が792,264人と予測され、2005年→2025年の間に8%程度の減少が予測されている。

医療の需要（医療費ベース）は、2005年から2015年に16%増加し、2015年から2025年にかけて1%程度の増加が予測される。

【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

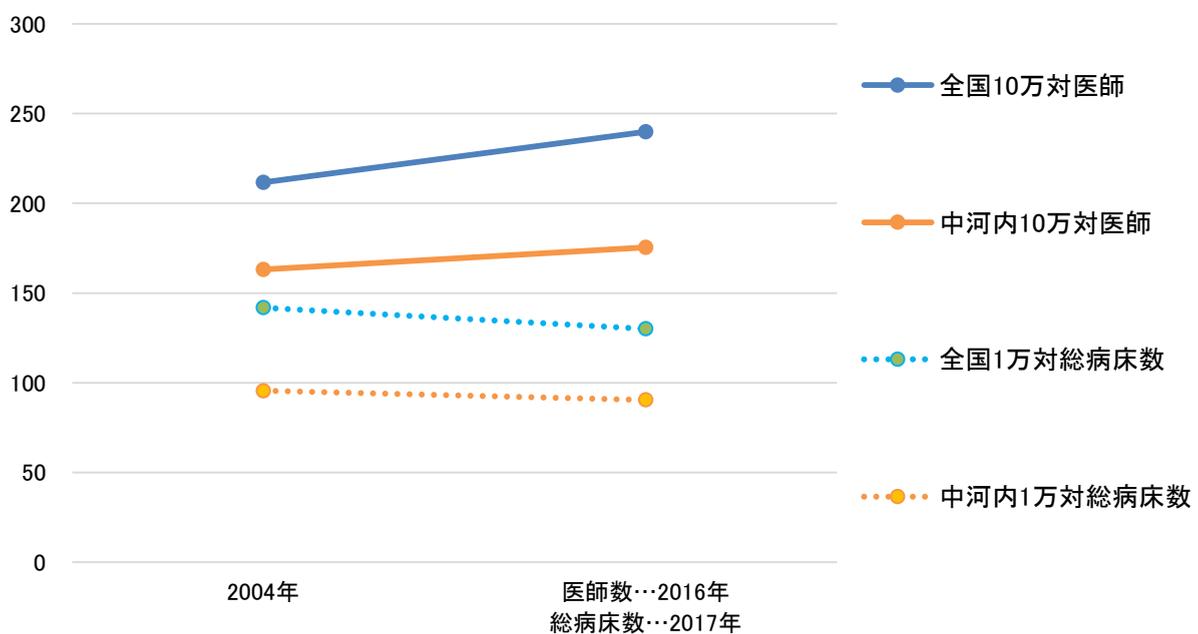
2004年の病院数が43(人口10万人当たり5病院(全国平均7.1)偏差値44)であったが、2017年に38(人口10万人当たり4.5病院(全国平均6.6)偏差値45)となり、13年間で5病院が減少した。

2004年の診療所数が702(人口10万人当たり81診療所(全国平均76)偏差値53)であったが、2017年に657(人口10万人当たり78診療所(全国平均80)偏差値49)と、45診療所が減少した。

2004年の総病床数が8,262床(人口1万人当たり96(全国平均142)偏差値42)であったが、2017年に7,626床(人口1万人当たり90(全国平均130)偏差値43)と、636床の減少、率にして8%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。

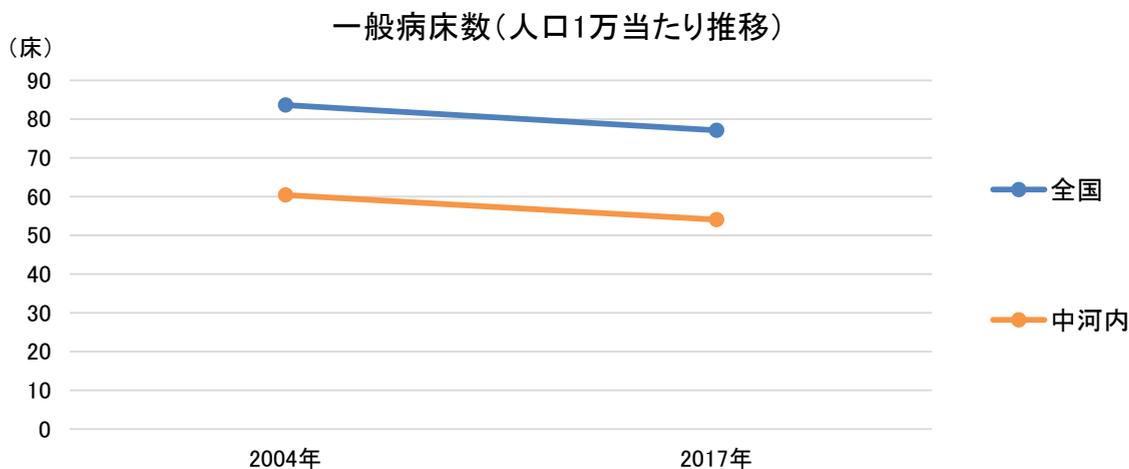
2004年には病院と診療所合わせての総医師数が1,410人(人口10万人当たり163人(全国平均212人)偏差値44)であったが、2016年に1,479人(人口10万人当たり176人(全国平均240人)偏差値43)と、69人の増加、率にして5%の増加(全国平均13%の増加)が見られた。

人口当たり医師数・総病床数の推移



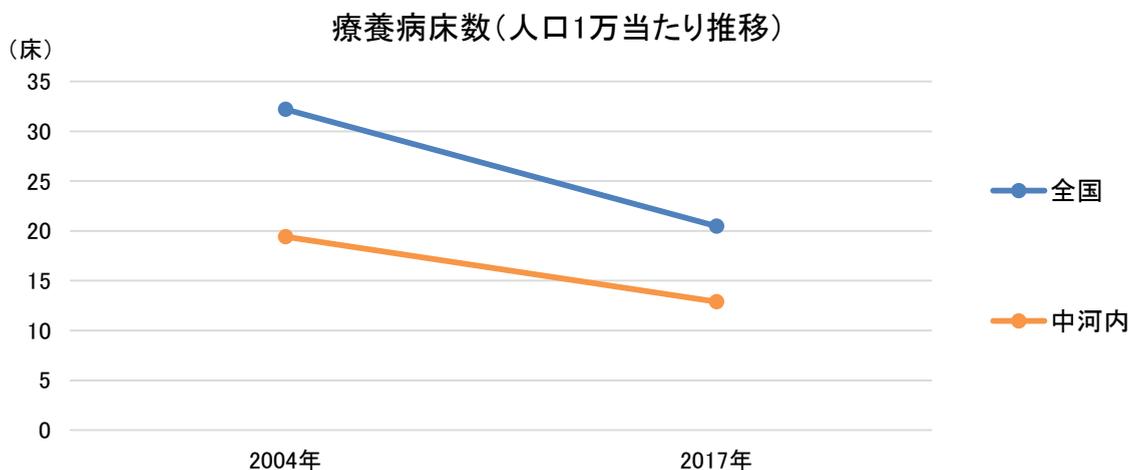
【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が5,219床(人口1万人当たり60(全国平均84)偏差値42)であったが、2017年に4,558床(人口1万人当たり54(全国平均77)偏差値41)と、661床の減少、率にして13%の減少(全国平均8%の減少)が見られた。



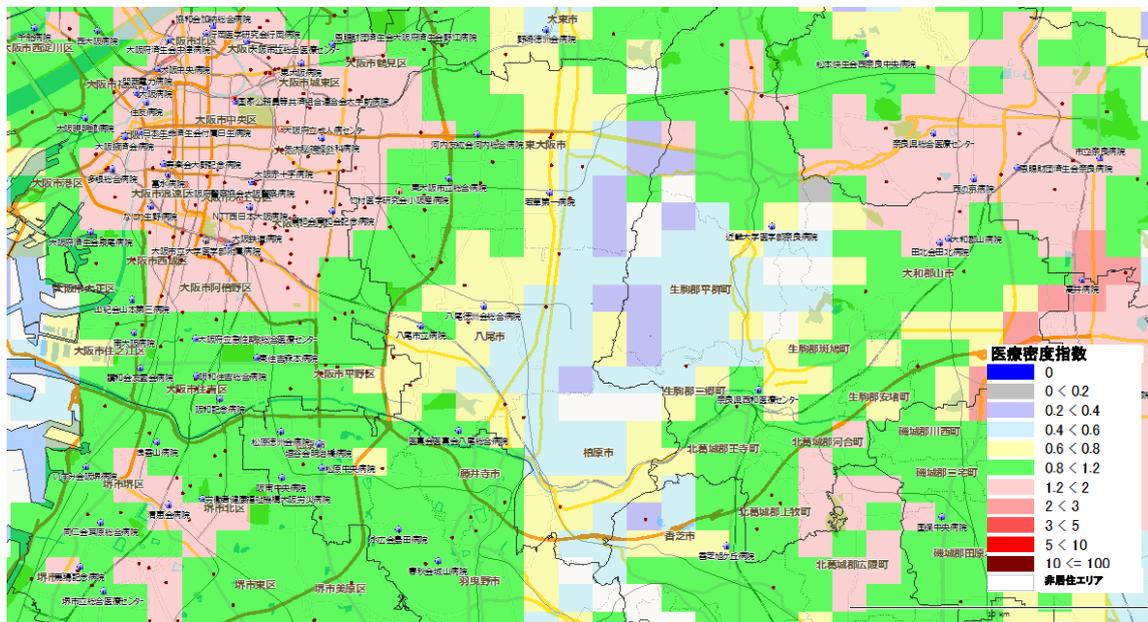
【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が1,180床(75歳以上1,000人当たり19(全国平均32)偏差値43)であったが、2017年に1,328床(75歳以上1,000人当たり13(全国平均20)偏差値43)と、148床の増加、率にして13%の増加(全国平均11%の減少)が見られた。



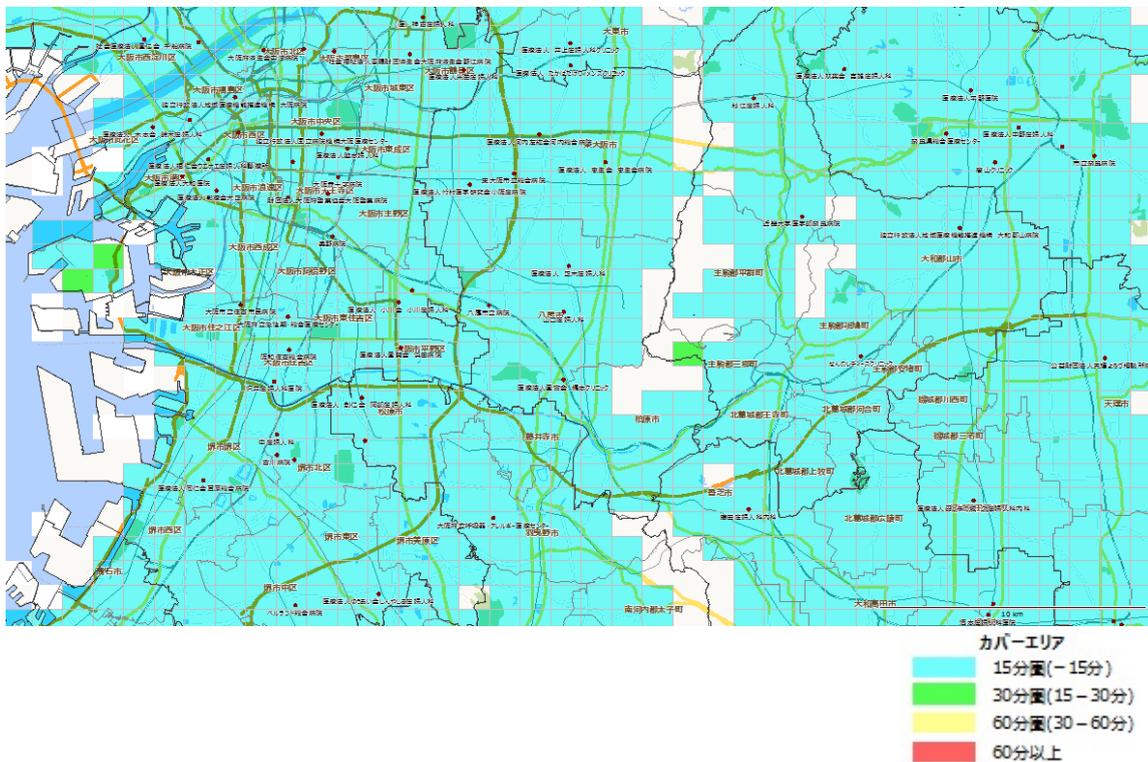
(中河内医療圏) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表27-4-1 急性期医療密度指数マップ



図表27-4-2 分娩医療機関への所用運転時間(カバーエリア)

※全国1km²メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関(病院と有床診療所)への運転時間を計算し、1km²メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの(「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照(日医総研WP no. 400))

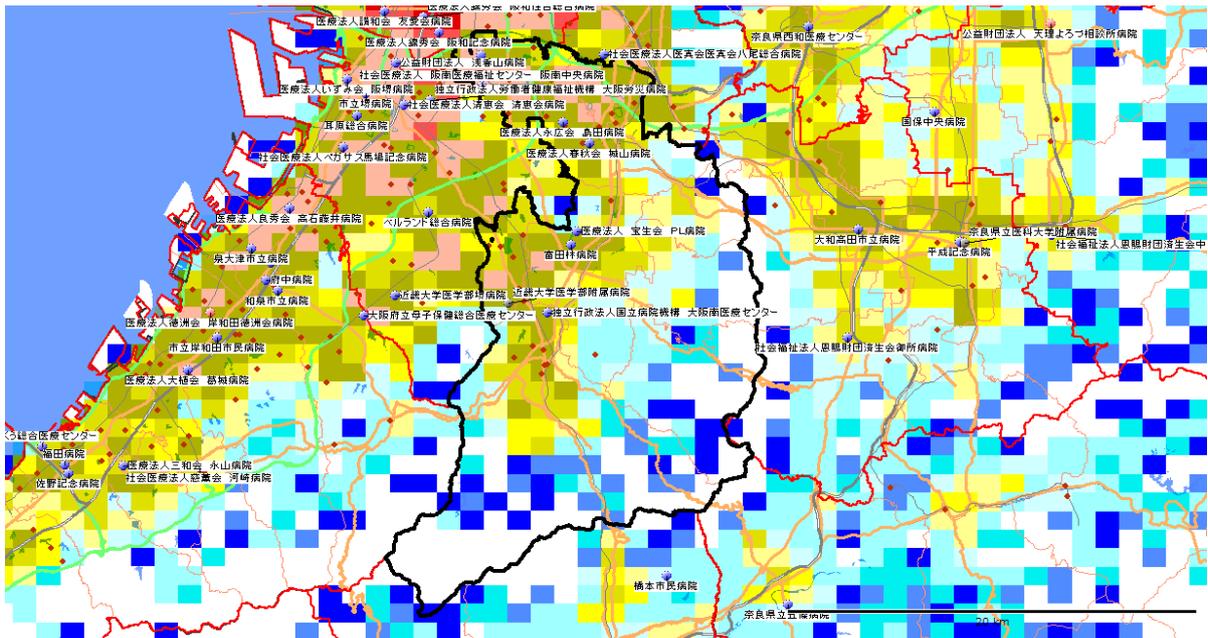


27-5. みなみかわち 南河内医療圏

構成市区町村 [富田林市](#) [河内長野市](#) [松原市](#) [羽曳野市](#)
[藤井寺市](#) [大阪狭山市](#) [太子町](#) [河南町](#)
[千早赤阪村](#)

※日本医師会JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報を参照可能
<http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

人口分布(1km²区画単位)



1km²区画(1km²メッシュ)で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く(10,000人/km²以上)、黄色系統は中間レベル(1,000~10,000人/km²)、青色系統は人口が少ない(1,000人/km²未満)。白色は非居住地。
 出所: 国勢調査(平成22年、総務省) 地図情報GIS Market Analyzer ver. 3.7 地図 PAREAシリーズ



(南河内医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

【地域の概要】

*人口、面積など： 南河内(富田林市)は、総人口約613千人(2015年)、面積290km²、人口密度は2,113人/km²の大都市型二次医療圏である。

*人口の将来予測： 南河内の総人口は2025年に554千人へと減少し(2015年比-10%)、2040年に446千人へと減少する(2025年比-19%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の79千人が、2025年にかけて115千人へと増加し(2015年比+46%)、2040年には108千人へと減少する(2025年比-6%)ことが予想される。

*医療費と介護給付費： 南河内の一人当たり医療費(国保)は361千円(偏差値53)、介護給付費は252千円(偏差値50)であり、医療費はやや高く、介護給付費は全国平均レベルである。

【医療の現状】

*入院医療の充実度： 南河内の一人当たり急性期医療密度指数は0.93、一人当たり慢性期医療密度指数は1.65で、急性期の医療は全国平均レベルであるが、慢性期の医療はかなり余裕がある。

*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が55(病院医師数56、診療所医師数48)と、総医師数はほぼ全国平均レベルであるが、病院医師数は多い。総看護師数の偏差値は49と全国平均レベルである。

*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は53で、一般病床はやや多い。全身麻酔数の偏差値は49と全国平均レベルである。南河内には、年間全身麻酔件数が2000例以上の近畿大学医学部附属病院(I群・救命)、1000例以上のNH0大阪南医療センター(Ⅲ群)、城山病院(Ⅲ群)、運動器ケアしまだ病院(Ⅲ群)、500例以上のPL病院(Ⅲ群)、富田林病院(Ⅲ群)、松原徳洲会病院(Ⅲ群)がある。

*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は52と療養病床数は全国平均レベルである。

*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値47とやや少なく、回復期病床数は偏差値43と少ない。

*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は50で精神病床数は全国平均レベルである。

*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は47で診療所数はやや少ない。

【介護施設や在宅ケアの現状】

*介護施設の現状： 南河内の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、6,957人(75歳以上1,000人当たりの偏差値41)と全国平均レベルを下回る。そのうち、介護保険施設の定員が4,100床(偏差値43)、高齢者住宅等が2,857床(偏差値46)である。介護保険施設は全国平均レベルを下回り、高齢者住宅等は全国平均レベルをやや下回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、5,734人(75歳以上1,000人当たりの偏差値45)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルをやや下回る。

施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設41、特別養護老人ホーム47、介護療養型医療施設49、有料老人ホーム47、軽費ホーム53、グループホーム43、サ高住51である。

*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値60と多く、在宅療養支援病院は偏差値56と多い。また、訪問看護ステーションは偏差値61と多い。介護職員(在宅)の合計は、1,520人(75歳以上1,000人当たりの偏差値60)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを上回る。

*介護の2025年の需要予測： 2025年の介護充足度指数は-62%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、非常に多くの高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

(南河内医療圏) 2. 推移

【人口と医療需要】

南河内医療圏の総人口は、2005年649,601人が、2015年に612,886人と6%減少し、2025年の人口が554,175人と予測され、2005年→2025年の間に15%程度の減少が予測されている。

医療の需要（医療費ベース）は、2005年から2015年に13%増加し、2015年から2025年にかけて3%程度の増加が予測される。

【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

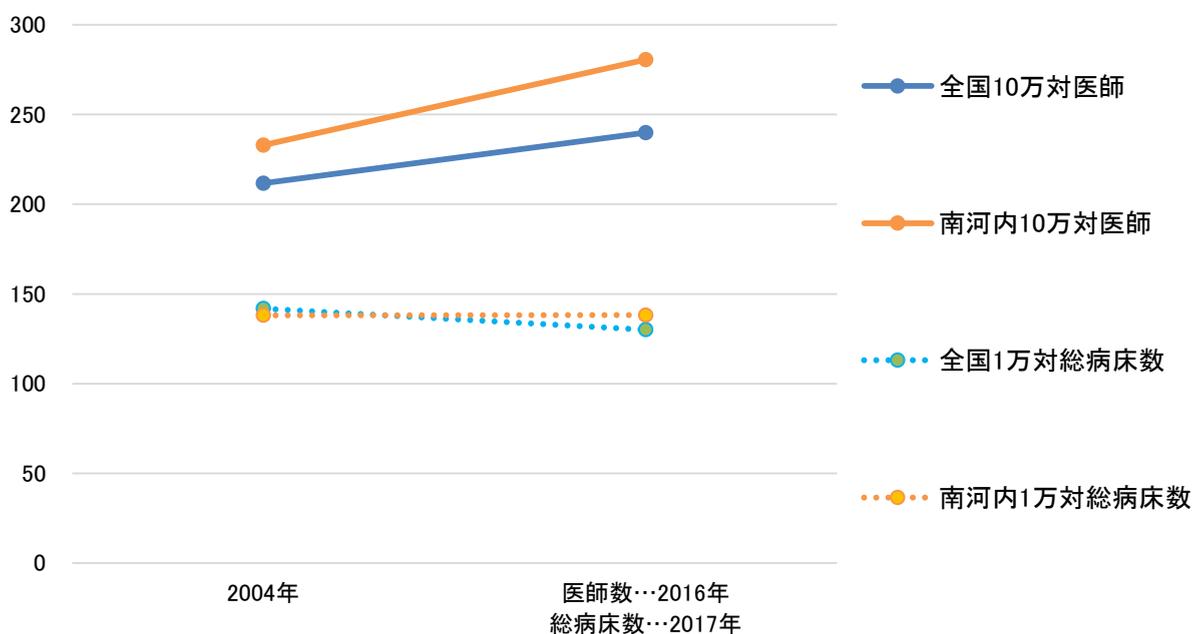
2004年の病院数が39(人口10万人当たり6病院(全国平均7.1)偏差値47)であったが、2017年に38(人口10万人当たり6.2病院(全国平均6.6)偏差値49)となり、13年間で1病院が減少した。

2004年の診療所数が437(人口10万人当たり67診療所(全国平均76)偏差値46)であったが、2017年に460(人口10万人当たり75診療所(全国平均80)偏差値47)と、23診療所が増加した。

2004年の総病床数が8,970床(人口1万人当たり138(全国平均142)偏差値49)であったが、2017年に8,471床(人口1万人当たり138(全国平均130)偏差値52)と、499床の減少、率にして6%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。

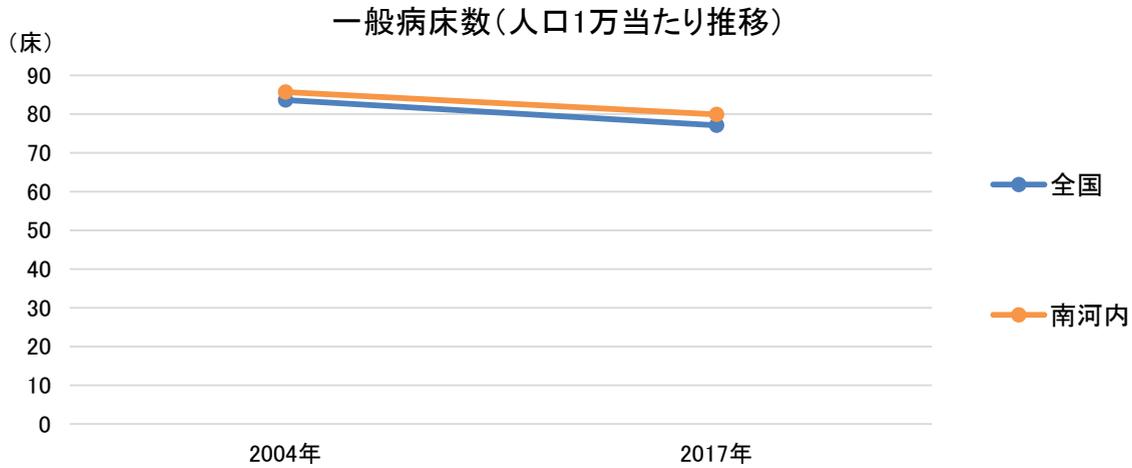
2004年には病院と診療所合わせての総医師数が1,513人(人口10万人当たり233人(全国平均212人)偏差値53)であったが、2016年に1,720人(人口10万人当たり281人(全国平均240人)偏差値55)と、207人の増加、率にして14%の増加(全国平均13%の増加)が見られた。

人口当たり医師数・総病床数の推移



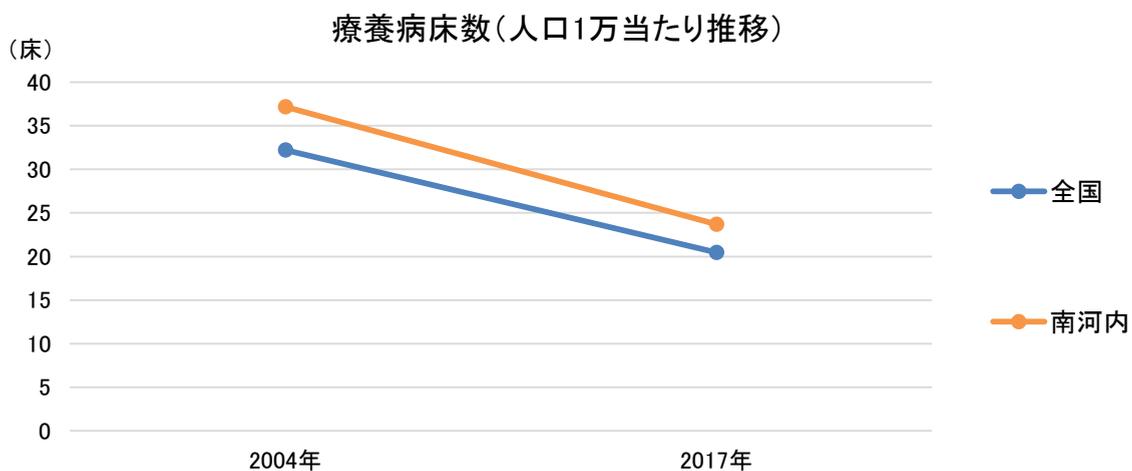
【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が5,568床(人口1万人当たり86(全国平均84)偏差値51)であったが、2017年に4,898床(人口1万人当たり80(全国平均77)偏差値51)と、670床の減少、率にして12%の減少(全国平均8%の減少)が見られた。



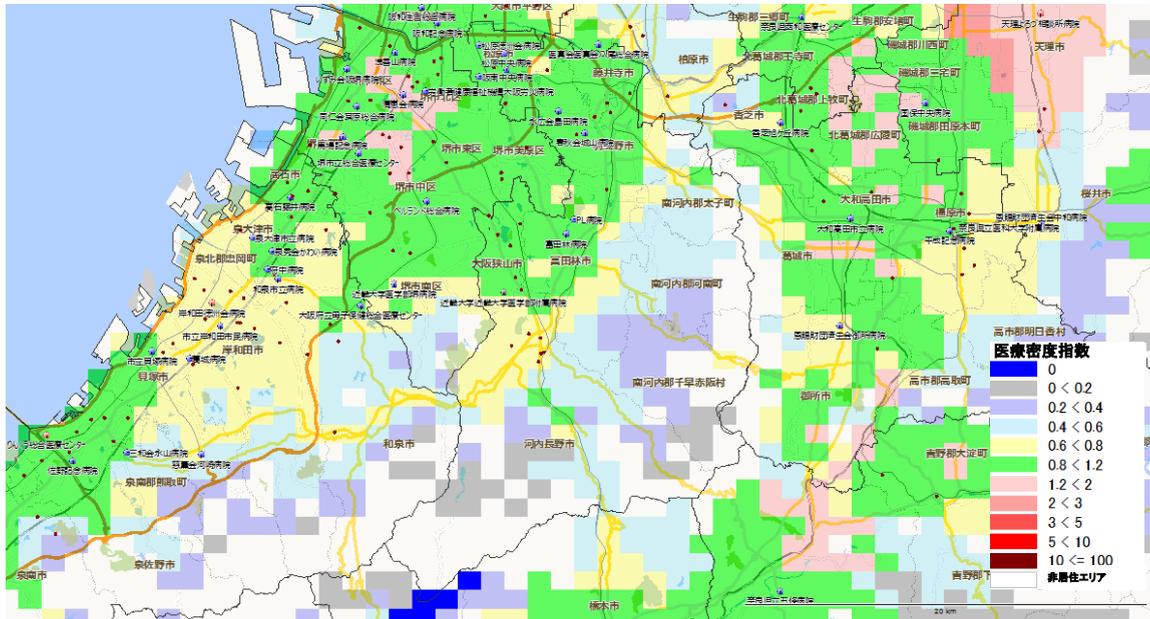
【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が1,837床(75歳以上1,000人当たり37(全国平均32)偏差値53)であったが、2017年に1,867床(75歳以上1,000人当たり24(全国平均20)偏差値53)と、30床の増加、率にして2%の増加(全国平均11%の減少)が見られた。



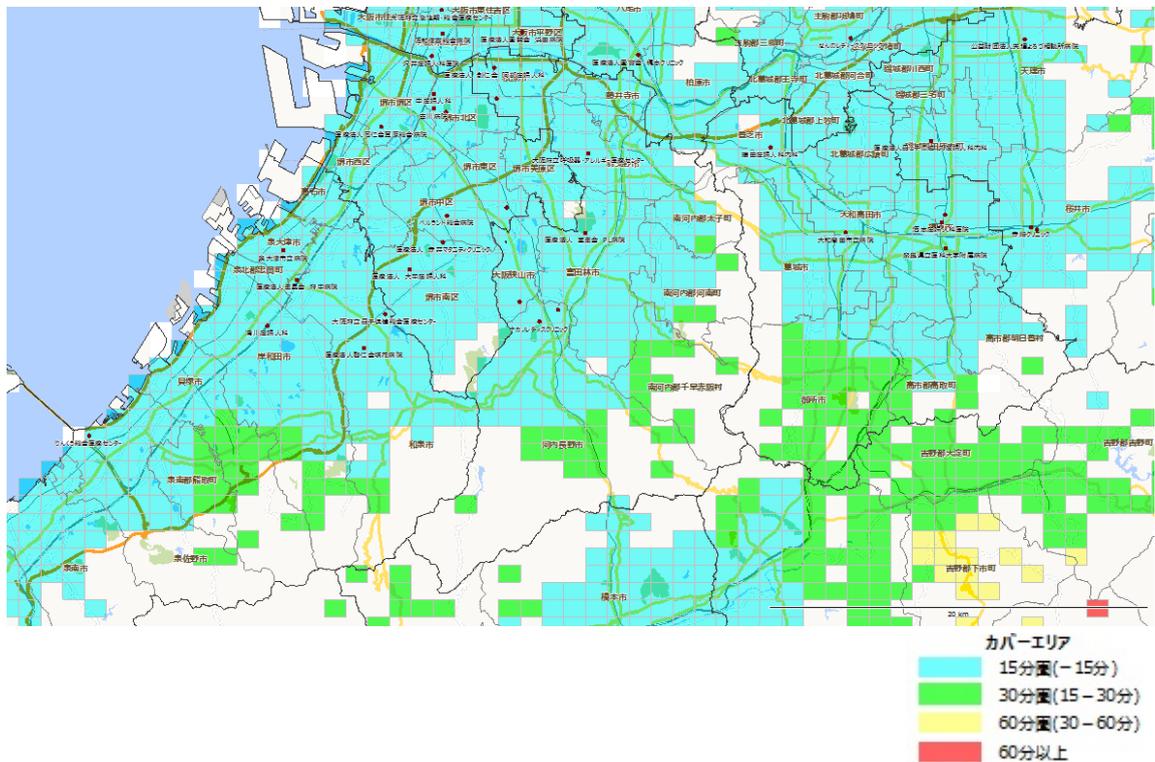
(南河内医療圏) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表27-5-1 急性期医療密度指数マップ



図表27-5-2 分娩医療機関への所用運転時間（カバーエリア）

※全国1km²メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関（病院と有床診療所）への運転時間を計算し、1km²メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの（「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照（日医総研WP no. 400）」）

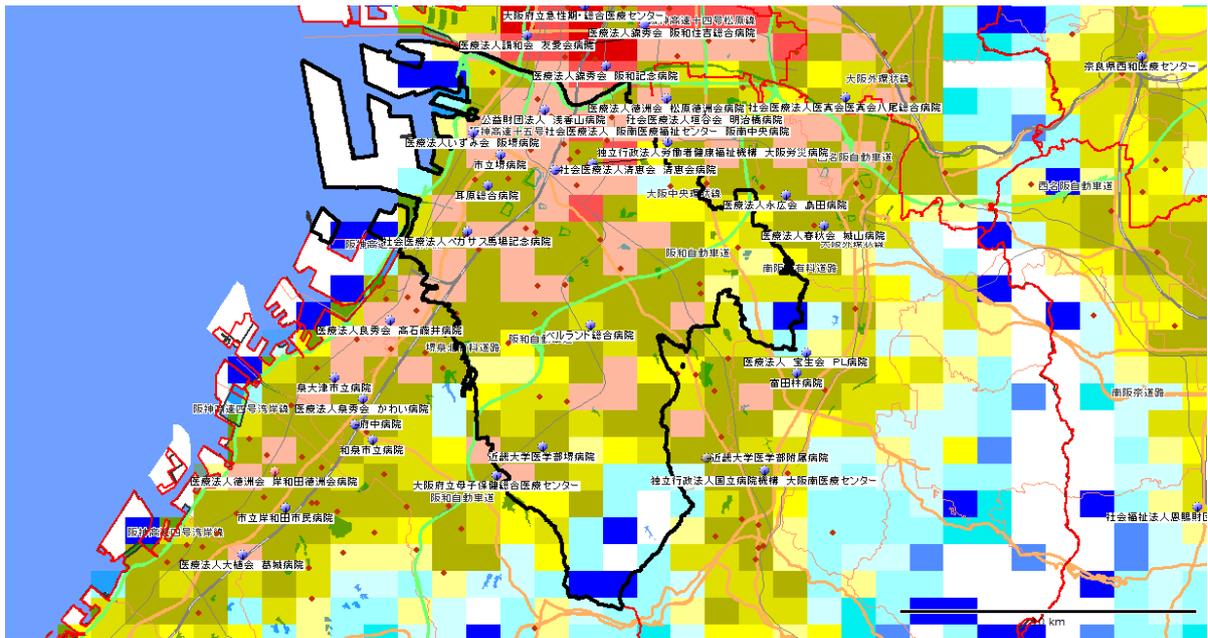


27-6. さかいし堺市医療圏

構成市区町村 [堺区](#) [中区](#) [東区](#) [西区](#)
[南区](#) [北区](#) [美原区](#)

※日本医師会JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報を参照可能
<http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

人口分布 (1km²区画単位)



1km²区画(1km²メッシュ)で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く(10,000人/km²以上)、黄色系統は中間レベル(1,000~10,000人/km²)、青色系統は人口が少ない(1,000人/km²未満)。白色は非居住地。
 出所: 国勢調査(平成22年、総務省) 地図情報GIS Market Analyzer ver. 3.7 地図 PAREAシリーズ



(堺市医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

【地域の概要】

*人口、面積など： 堺市(堺市堺区)は、総人口約839千人(2015年)、面積150km²、人口密度は5,602人/km²の大都市型二次医療圏である。

*人口の将来予測： 堺市の総人口は2025年に813千人へと減少し(2015年比-3%)、2040年に734千人へと減少する(2025年比-10%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の100千人が、2025年にかけて150千人へと増加し(2015年比+50%)、2040年には137千人へと減少する(2025年比-9%)ことが予想される。

*医療費と介護給付費： 堺市の一人当たり医療費(国保)は371千円(偏差値56)、介護給付費は269千円(偏差値55)であり、医療費は高く、介護給付費はやや高い。

【医療の現状】

*入院医療の充実度： 堺市の一人当たり急性期医療密度指数は1.09、一人当たり慢性期医療密度指数は1.57で、急性期の医療は全国平均レベルであるが、慢性期の医療はかなり余裕がある。

*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が49(病院医師数48、診療所医師数51)と、総医師数、病院医師数、診療所医師数ともにほぼ全国平均レベルである。総看護師数の偏差値は50と全国平均レベルである。

*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は49で、一般病床は全国平均レベルである。全身麻酔数の偏差値は44と少ない。堺市には、年間全身麻酔件数が2000例以上の大阪労災病院(Ⅲ群)、堺市立総合医療センター(Ⅱ群・救命)、ベルランド総合病院(Ⅱ群)、500例以上の清恵会病院(Ⅲ群)、耳原総合病院(Ⅲ群)、馬場記念病院(Ⅲ群)がある。

*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は59と療養病床数は多い。

*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値52と全国平均レベルであり、回復期病床数は偏差値49と全国平均レベルである。

*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は53で精神病床数はやや多い。

*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は54で診療所数はやや多い。

【介護施設や在宅ケアの現状】

*介護施設の現状： 堺市の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、9,608人(75歳以上1,000人当たりの偏差値45)と全国平均レベルをやや下回る。そのうち、介護保険施設の定員が4,572床(偏差値37)、高齢者住宅等が5,036床(偏差値55)である。介護保険施設は全国平均レベルを下回るが、高齢者住宅等は全国平均レベルをやや上回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、6,994人(75歳以上1,000人当たりの偏差値42)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設41、特別養護老人ホーム43、介護療養型医療施設なし(偏差値41)、有料老人ホーム45、軽費ホーム51、グループホーム50、サ高住68である。

*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値65と多く、在宅療養支援病院は偏差値56と多い。また、訪問看護ステーションは偏差値76と非常に多い。介護職員(在宅)の合計は、3,331人(75歳以上1,000人当たりの偏差値85)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを大きく上回る。

*介護の2025年の需要予測： 2025年の介護充足度指数は-73%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、非常に多くの高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

(堺市医療圏) 2. 推移

【人口と医療需要】

堺市医療圏の総人口は、2005年830,966人が、2015年に839,310人と1%増加し、2025年の人口が812,527人と予測され、2005年→2025年の間に2%程度の減少が予測されている。

医療の需要(医療費ベース)は、2005年から2015年に19%増加し、2015年から2025年にかけて6%程度の増加が予測される。

【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

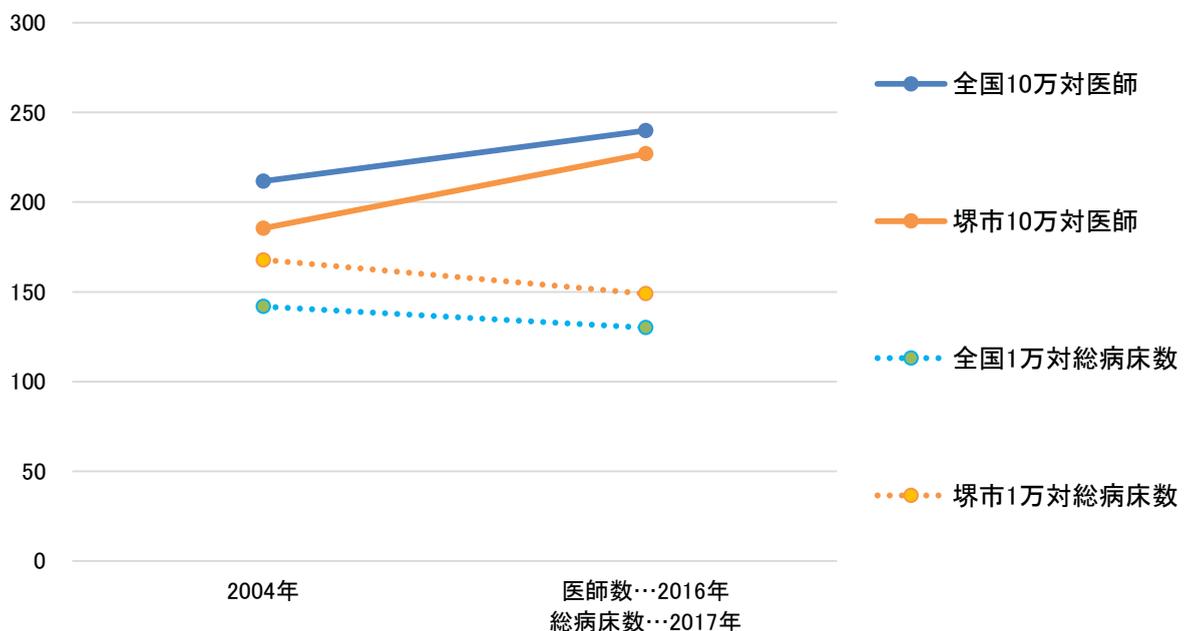
2004年の病院数が47(人口10万人当たり5.7病院(全国平均7.1)偏差値46)であったが、2017年に44(人口10万人当たり5.2病院(全国平均6.6)偏差値47)となり、13年間で3病院が減少した。

2004年の診療所数が709(人口10万人当たり85診療所(全国平均76)偏差値55)であったが、2017年に736(人口10万人当たり88診療所(全国平均80)偏差値54)と、27診療所が増加した。

2004年の総病床数が13,942床(人口1万人当たり168(全国平均142)偏差値55)であったが、2017年に12,508床(人口1万人当たり149(全国平均130)偏差値54)と、1,434床の減少、率にして10%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。

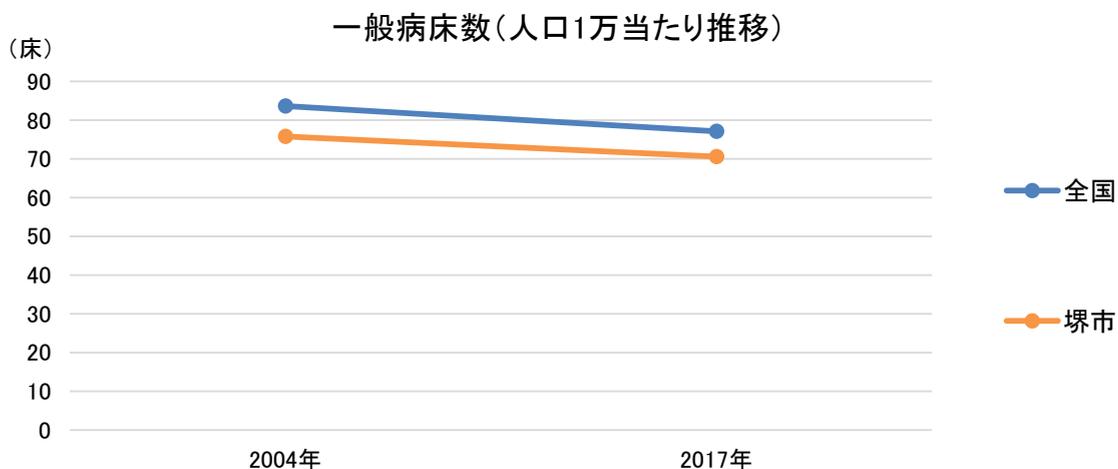
2004年には病院と診療所合わせての総医師数が1,541人(人口10万人当たり185人(全国平均212人)偏差値47)であったが、2016年に1,906人(人口10万人当たり227人(全国平均240人)偏差値49)と、365人の増加、率にして24%の増加(全国平均13%の増加)が見られた。

人口当たり医師数・総病床数の推移



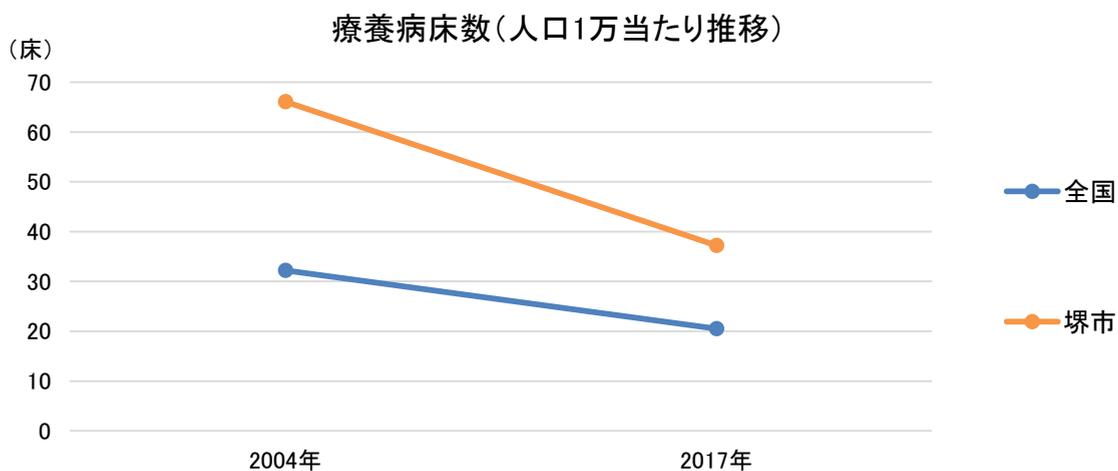
【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が6,298床(人口1万人当たり76(全国平均84)偏差値47)であったが、2017年に5,927床(人口1万人当たり71(全国平均77)偏差値48)と、371床の減少、率にして6%の減少(全国平均8%の減少)が見られた。



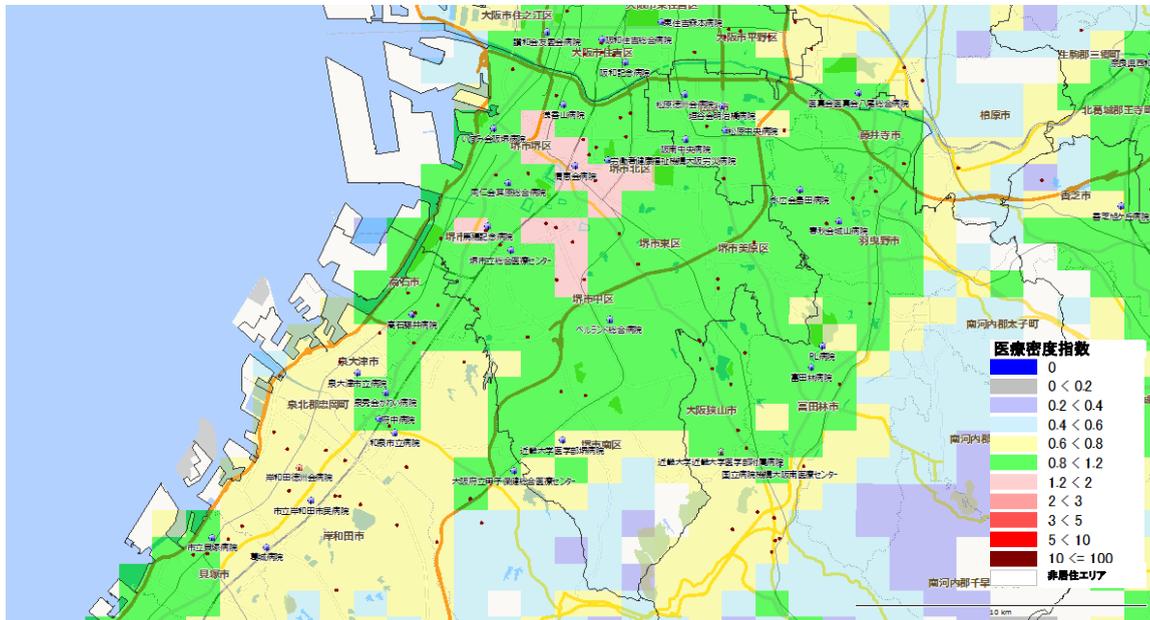
【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が4,023床(75歳以上1,000人当たり66(全国平均32)偏差値69)であったが、2017年に3,735床(75歳以上1,000人当たり37(全国平均20)偏差値65)と、288床の減少、率にして7%の減少(全国平均11%の減少)が見られた。



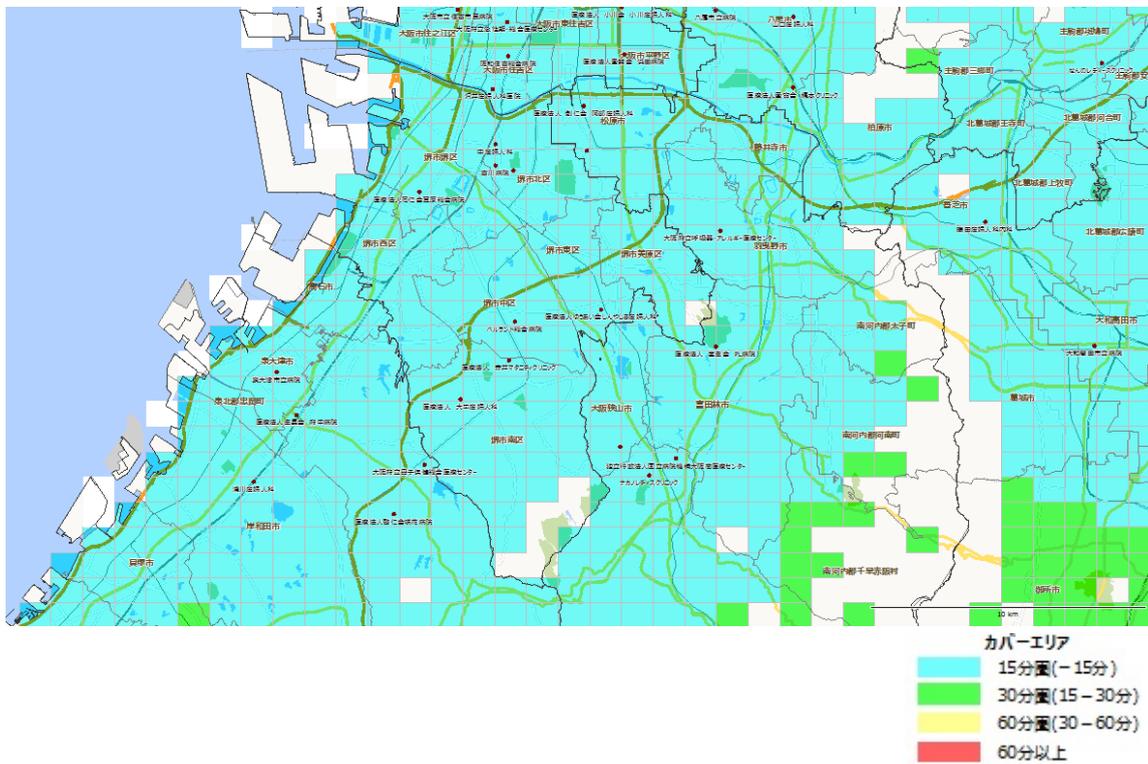
(堺市医療圏) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表27-6-1 急性期医療密度指数マップ



図表27-6-2 分娩医療機関への所用運転時間(カバーエリア)

※全国1km²メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関(病院と有床診療所)への運転時間を計算し、1km²メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの(「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照(日医総研WP no. 400))

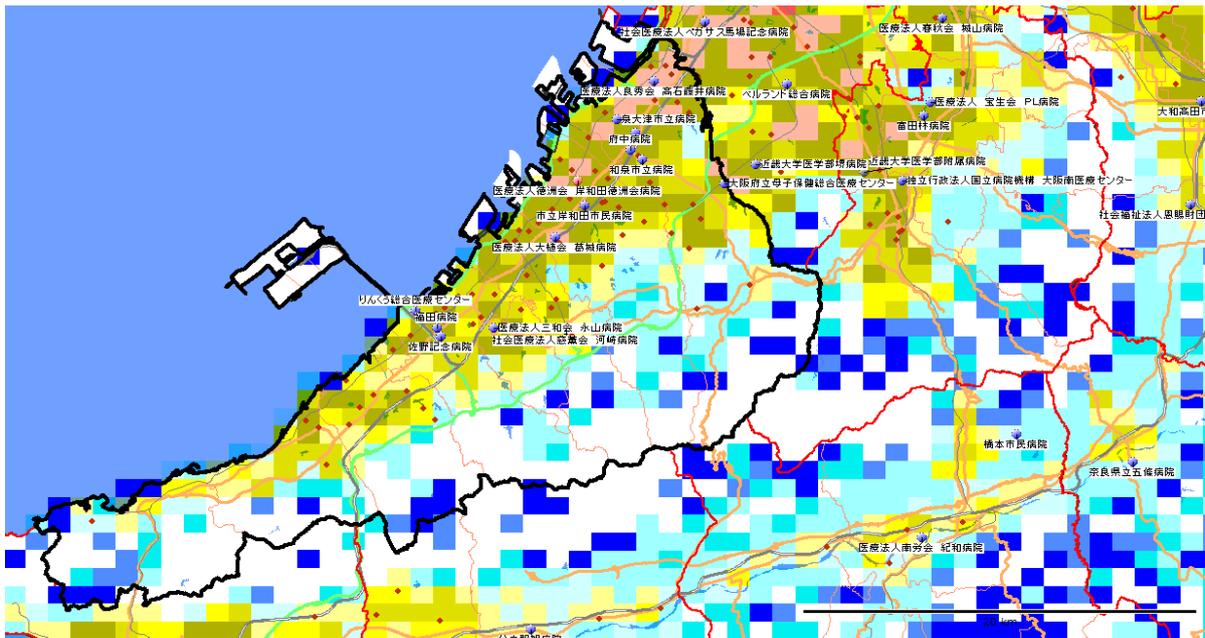


27-7. せんしゅう 泉州医療圏

構成市区町村 [岸和田市](#) [泉大津市](#) [貝塚市](#) [泉佐野市](#)
[和泉市](#) [高石市](#) [泉南市](#) [阪南市](#)
[忠岡町](#) [熊取町](#) [田尻町](#) [岬町](#)

※日本医師会JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報を参照可能
<http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

人口分布(1km²区画単位)



1km²区画(1km²メッシュ)で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く(10,000人/km²以上)、黄色系統は中間レベル(1,000~10,000人/km²)、青色系統は人口が少ない(1,000人/km²未満)。白色は非居住地。
 出所：国勢調査(平成22年、総務省)地図情報GIS Market Analyzer ver.3.7 地図 PAREAシリーズ



(泉州医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

【地域の概要】

*人口、面積など： 泉州(岸和田市)は、総人口約906千人(2015年)、面積445km²、人口密度は2,036人/km²の大都市型二次医療圏である。

*人口の将来予測： 泉州の総人口は2025年に851千人へと減少し(2015年比-6%)、2040年に738千人へと減少する(2025年比-13%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の104千人が、2025年にかけて146千人へと増加し(2015年比+40%)、2040年には142千人へと減少する(2025年比-3%)ことが予想される。

*医療費と介護給付費： 泉州の一人当たり医療費(国保)は360千円(偏差値53)、介護給付費は249千円(偏差値49)であり、医療費はやや高く、介護給付費は全国平均レベルである。

【医療の現状】

*入院医療の充実度： 泉州の一人当たり急性期医療密度指数は0.78、一人当たり慢性期医療密度指数は1.07で、急性期の医療は少ないが、慢性期の医療は全国平均レベルである。

*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が47(病院医師数47、診療所医師数47)と、総医師数、病院医師数、診療所医師数ともにほぼ全国平均レベルである。総看護師数の偏差値は51と全国平均レベルである。

*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は41で、一般病床は少ない。全身麻酔数の偏差値は53とやや多い。泉州には、年間全身麻酔件数が2000例以上の大阪母子医療センター(Ⅲ群)、りんくう総合医療センター(Ⅱ群・救命)、岸和田徳洲会病院(Ⅱ群・救命)、1000例以上の市立岸和田市民病院(Ⅲ群)、市立貝塚病院(Ⅲ群)、葛城病院(Ⅲ群)、府中病院(Ⅲ群)、500例以上の佐野記念病院(Ⅲ群)、泉大津市立病院(Ⅲ群)、咲花病院(Ⅲ群)、和泉市立総合医療センター(Ⅲ群)がある。

*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は59と療養病床数は多い。

*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値52と全国平均レベルであり、回復期病床数は偏差値57と多い。

*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は70で精神病床数は非常に多い。

*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は47で診療所数はやや少ない。

【介護施設や在宅ケアの現状】

*介護施設の現状： 泉州の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、9,204人(75歳以上1,000人当たりの偏差値41)と全国平均レベルを下回る。そのうち、介護保険施設の定員が4,825床(偏差値38)、高齢者住宅等が4,379床(偏差値50)である。介護保険施設は全国平均レベルを下回るが、高齢者住宅等は全国平均レベルである。また、介護職員(介護施設等)の合計は、6,263人(75歳以上1,000人当たりの偏差値34)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを大きく下回る。

施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設42、特別養護老人ホーム39、介護療養型医療施設53、有料老人ホーム41、軽費ホーム53、グループホーム42、サ高住69である。

*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値57と多く、在宅療養支援病院は偏差値67と非常に多い。また、訪問看護ステーションは偏差値67と非常に多い。介護職員(在宅)の合計は、2,953人(75歳以上1,000人当たりの偏差値77)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを大きく上回る。

*介護の2025年の需要予測： 2025年の介護充足度指数は-91%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、非常に多くの高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

(泉州医療圏) 2. 推移

【人口と医療需要】

泉州医療圏の総人口は、2005年916,993人が、2015年に905,908人と1%減少し、2025年の人口が850,739人と予測され、2005年→2025年の間に7%程度の減少が予測されている。

医療の需要(医療費ベース)は、2005年から2015年に14%増加し、2015年から2025年にかけて3%程度の増加が予測される。

【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

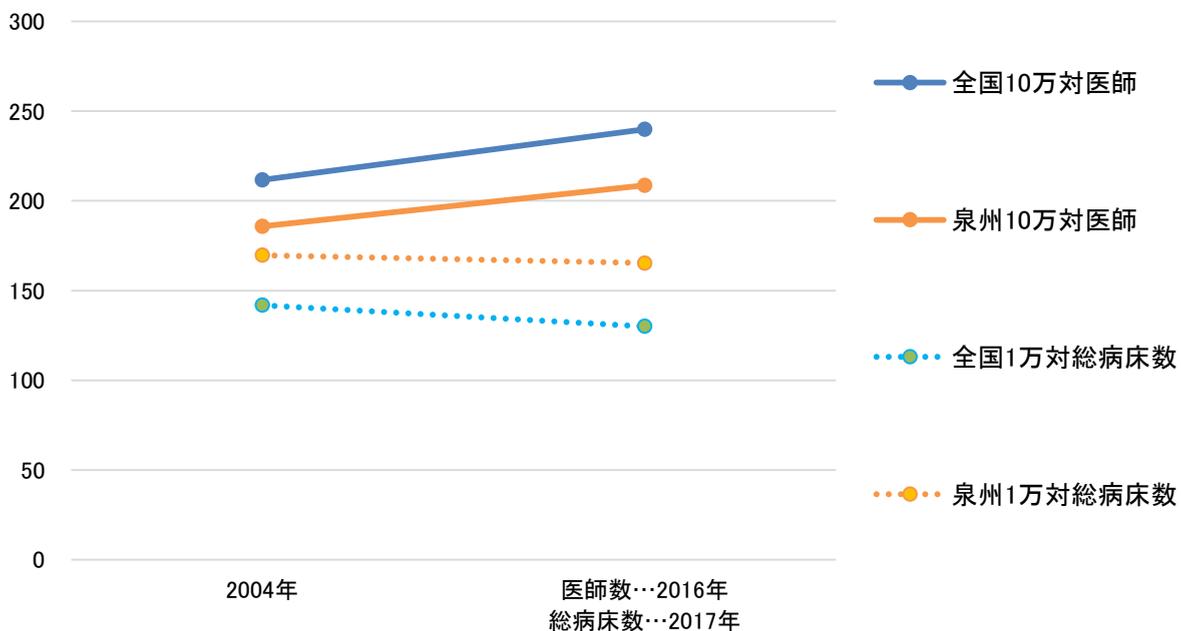
2004年の病院数が81(人口10万人当たり8.8病院(全国平均7.1)偏差値54)であったが、2017年に75(人口10万人当たり8.3病院(全国平均6.6)偏差値54)となり、13年間で6病院が減少した。

2004年の診療所数が607(人口10万人当たり66診療所(全国平均76)偏差値45)であったが、2017年に670(人口10万人当たり74診療所(全国平均80)偏差値47)と、63診療所が増加した。

2004年の総病床数が15,563床(人口1万人当たり170(全国平均142)偏差値55)であったが、2017年に14,976床(人口1万人当たり165(全国平均130)偏差値57)と、587床の減少、率にして4%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。

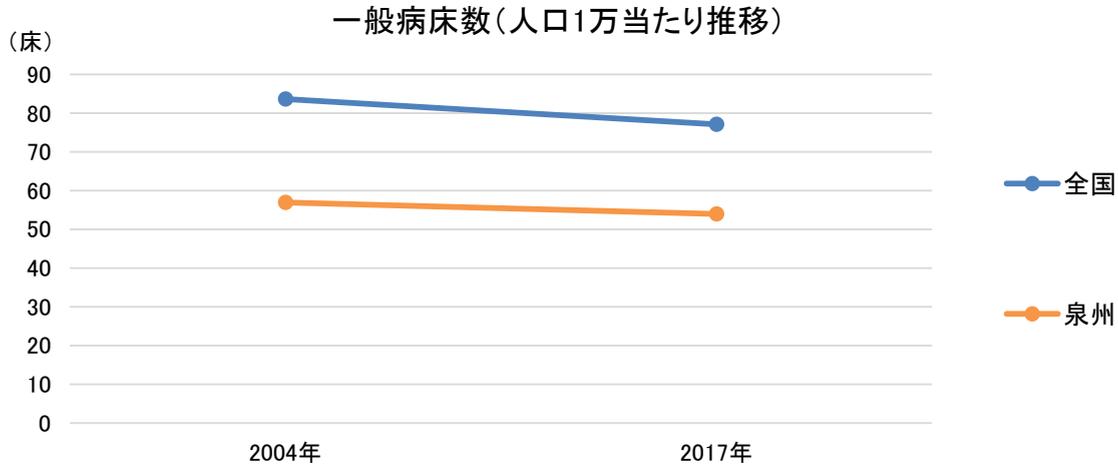
2004年には病院と診療所合わせての総医師数が1,704人(人口10万人当たり186人(全国平均212人)偏差値47)であったが、2016年に1,890人(人口10万人当たり209人(全国平均240人)偏差値47)と、186人の増加、率にして11%の増加(全国平均13%の増加)が見られた。

人口当たり医師数・総病床数の推移



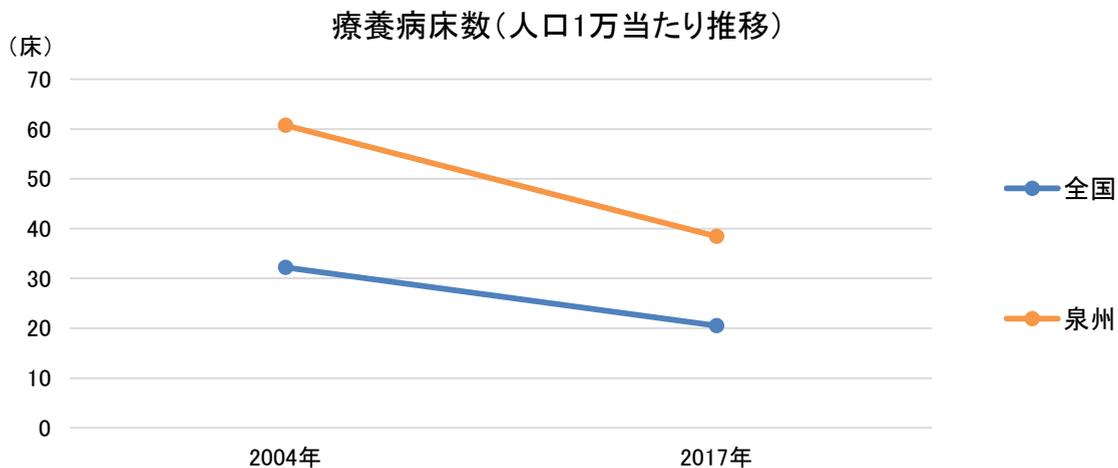
【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が5,221床(人口1万人当たり57(全国平均84)偏差値41)であったが、2017年に4,889床(人口1万人当たり54(全国平均77)偏差値41)と、332床の減少、率にして6%の減少(全国平均8%の減少)が見られた。



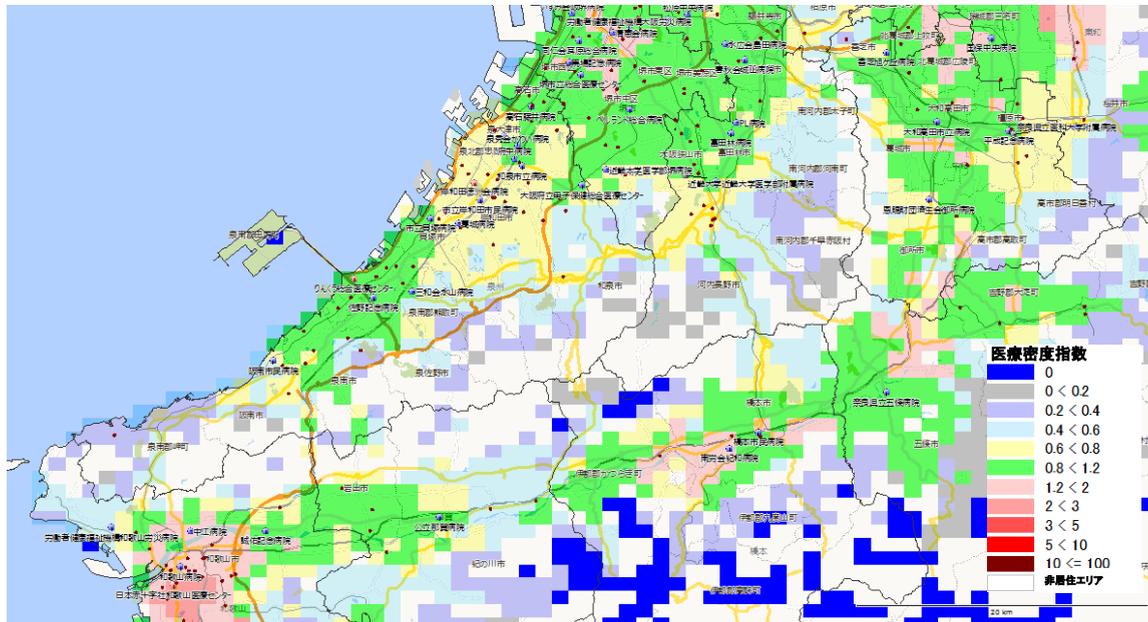
【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が4,102床(75歳以上1,000人当たり61(全国平均32)偏差値66)であったが、2017年に3,980床(75歳以上1,000人当たり38(全国平均20)偏差値66)と、122床の減少、率にして3%の減少(全国平均11%の減少)が見られた。



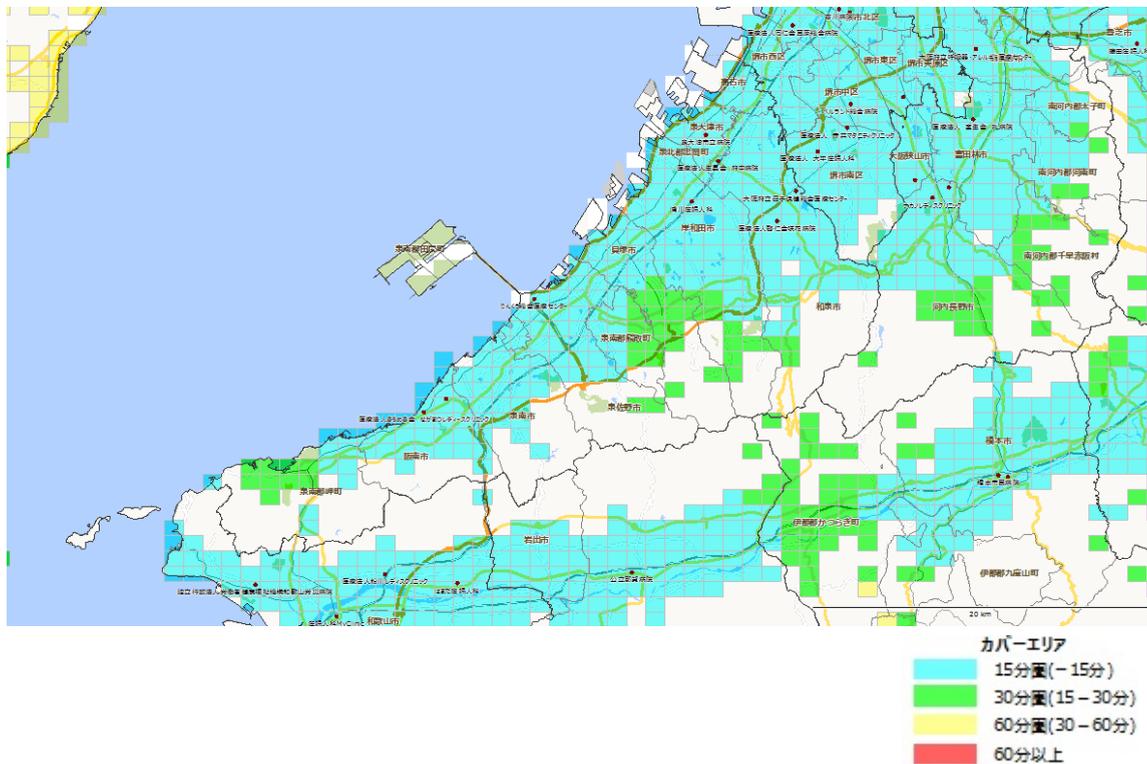
(泉州医療圏) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表27-7-1 急性期医療密度指数マップ



図表27-7-2 分娩医療機関への所用運転時間 (カバーエリア)

※全国1km²メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関(病院と有床診療所)への運転時間を計算し、1km²メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの(「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照(日医総研WP no. 400))

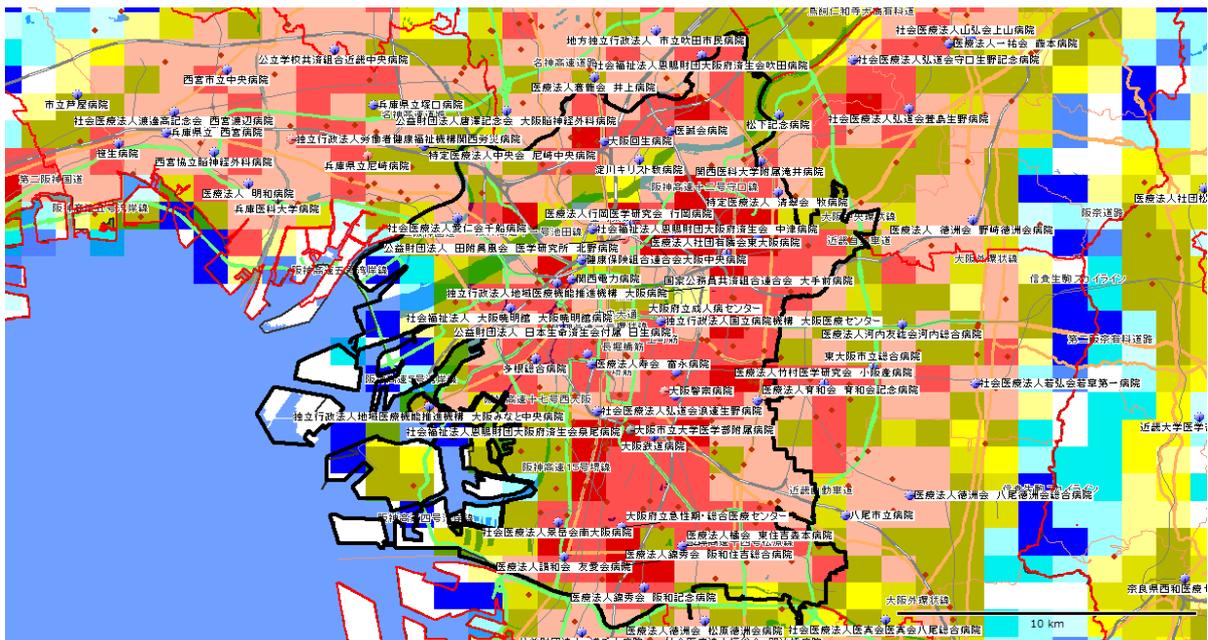


27-8. おおさかし 大阪市医療圏

構成市区町村	都島区	福島区	此花区	西区
	港区	大正区	天王寺区	浪速区
	西淀川区	東淀川区	東成区	生野区
	旭区	城東区	阿倍野区	住吉区
	東住吉区	西成区	淀川区	鶴見区
	住之江区	平野区	北区	中央区

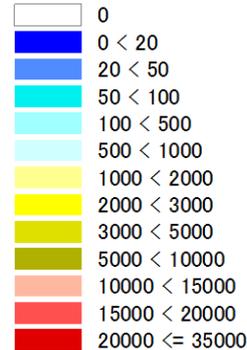
※日本医師会JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報を参照可能
<http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

人口分布 (1km²区画単位)



1km²区画 (1km²メッシュ) で分割した各区画内の居住人口。
 赤色系統は人口が多く (10,000人/km²以上)、黄色系統は
 中間レベル (1,000~10,000人/km²)、青色系統は人口が
 少ない (1,000人/km²未満)。白色は非居住地。
 出所: 国勢調査 (平成22年、総務省) 地図情報GIS
 Market Analyzer ver. 3.7 地図 PAREAシリーズ

区画内人口 (1平方キロ)



DPG病院



(大阪市医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

【地域の概要】

*人口、面積など： 大阪市(大阪市都島区)は、総人口約2,691千人(2015年)、面積225km²、人口密度は11,948人/km²の大都市型二次医療圏である。

*人口の将来予測： 大阪市の総人口は2025年に2,663千人へと減少し(2015年比-1%)、2040年に2,489千人へと減少する(2025年比-7%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の324千人が、2025年にかけて428千人へと増加し(2015年比+32%)、2040年には417千人へと減少する(2025年比-3%)ことが予想される。

*医療費と介護給付費： 大阪市の一人当たり医療費(国保)は335千円(偏差値47)、介護給付費は317千円(偏差値69)であり、医療費はやや低いが、介護給付費は非常に高い。

【医療の現状】

*入院医療の充実度： 大阪市の一人当たり急性期医療密度指数は1.31、一人当たり慢性期医療密度指数は0.85で、急性期の医療は充実しているが、慢性期の医療は全国平均レベルである。

*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が60(病院医師数57、診療所医師数66)と、総医師数と病院医師数は多く、診療所医師数は非常に多い。総看護師数の偏差値は54とやや多い。

*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は61で、一般病床は多い。全身麻酔数の偏差値は68と非常に多い。大阪市には、年間全身麻酔件数が2000例以上のNHO大阪医療センター(Ⅲ群・救命)、JCHO大阪病院(Ⅲ群)、村田病院(Ⅲ群)、多根総合病院(Ⅲ群)、中津病院(Ⅱ群)、大阪国際がんセンター(Ⅱ群)、大阪市立総合医療センター(Ⅱ群・救命)、北野病院(Ⅱ群)、淀川キリスト教病院(Ⅱ群)、大阪急性期・総合医療センター(Ⅱ群・救命)、大阪警察病院(Ⅱ群)、大阪赤十字病院(Ⅱ群・救命)、大阪市立大学医学部附属病院(Ⅰ群・救命)、1000例以上の大手前病院(Ⅲ群)、野江病院(Ⅲ群)、住友病院(Ⅲ群)、大阪中央病院(Ⅲ群)、医誠会病院(Ⅲ群)、大阪鉄道病院(Ⅲ群)、日生病院(Ⅲ群)、千船病院(Ⅲ群)、関西電力病院(Ⅱ群)、500例以上のJCHO大阪みなと中央病院(Ⅲ群)、大阪市立十三市民病院(Ⅲ群)、大阪回生病院(Ⅲ群)、南大阪病院(Ⅲ群)、なにわ生野病院(Ⅲ群)、富永病院(Ⅲ群)、行岡病院(Ⅲ群)、牧病院(Ⅲ群)、大阪暁明館病院(Ⅲ群)、NTT西日本大阪病院(Ⅲ群)、東住吉森本病院(Ⅲ群)がある。

*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は49と療養病床数は全国平均レベルである。

*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値50と全国平均レベルであり、回復期病床数は偏差値50と全国平均レベルである。

*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は38で精神病床数は少ない。

*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は75で診療所数は非常に多い。

【介護施設や在宅ケアの現状】

*介護施設の現状： 大阪市の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、38,695人(75歳以上1,000人当たりの偏差値59)と全国平均レベルを上回る。そのうち、介護保険施設の定員が19,107床(偏差値48)、高齢者住宅等が19,588床(偏差値61)である。介護保険施設は全国平均レベルであるが、高齢者住宅等は全国平均レベルを上回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、24,568人(75歳以上1,000人当たりの偏差値47)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルをやや下回る。

施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設48、特別養護老人ホーム51、介護療養型医療施設44、有料老人ホーム59、軽費ホーム44、グループホーム50、サ高住64である。

*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値81と非常に多く、在宅療養支援病院は偏差値55とやや多い。また、訪問看護ステーションは偏差値70と非常に多い。介護職員(在宅)の合計は、12,371人(75歳以上1,000人当たりの偏差値94)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを大きく上回る。

*介護の2025年の需要予測： 2025年の介護充足度指数は-11%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

(大阪市医療圏) 2. 推移

【人口と医療需要】

大阪市医療圏の総人口は、2005年2,628,811人が、2015年に2,691,185人と2%増加し、2025年の人口が2,663,262人と予測され、2005年→2025年の間に1%程度の増加が予測されている。

医療の需要（医療費ベース）は、2005年から2015年に15%増加し、2015年から2025年にかけて4%程度の増加が予測される。

【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

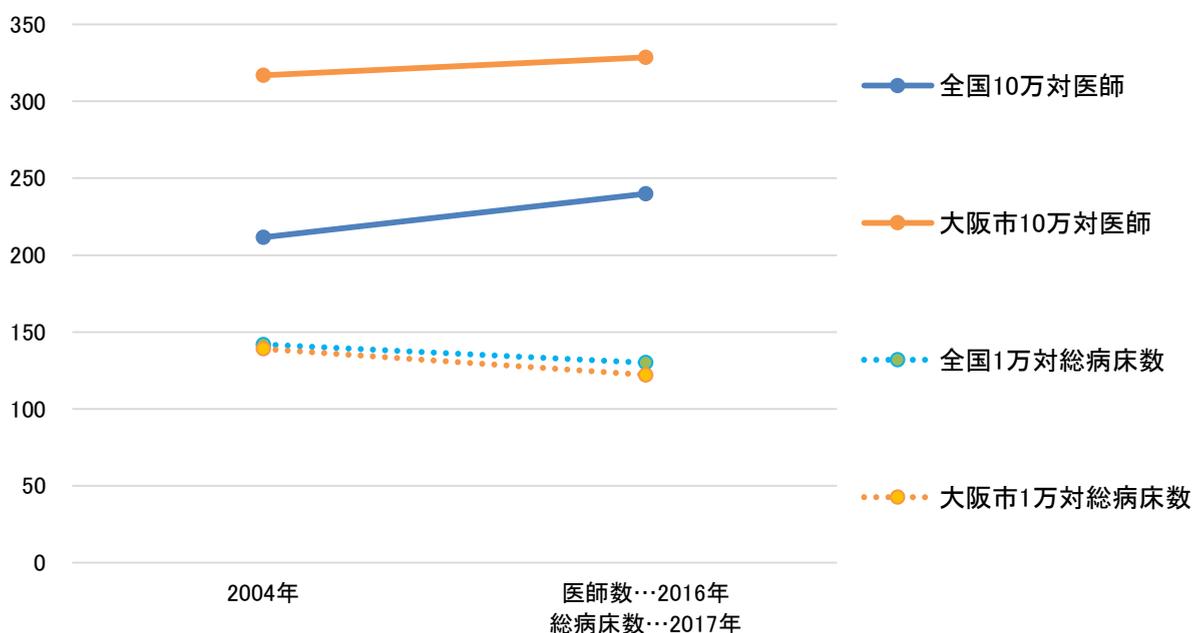
2004年の病院数が200(人口10万人当たり7.6病院(全国平均7.1)偏差値51)であったが、2017年に179(人口10万人当たり6.7病院(全国平均6.6)偏差値50)となり、13年間で21病院が減少した。

2004年の診療所数が3,315(人口10万人当たり126診療所(全国平均76)偏差値75)であったが、2017年に3,412(人口10万人当たり127診療所(全国平均80)偏差値75)と、97診療所が増加した。

2004年の総病床数が36,564床(人口1万人当たり139(全国平均142)偏差値50)であったが、2017年に32,865床(人口1万人当たり122(全国平均130)偏差値49)と、3,699床の減少、率にして10%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。

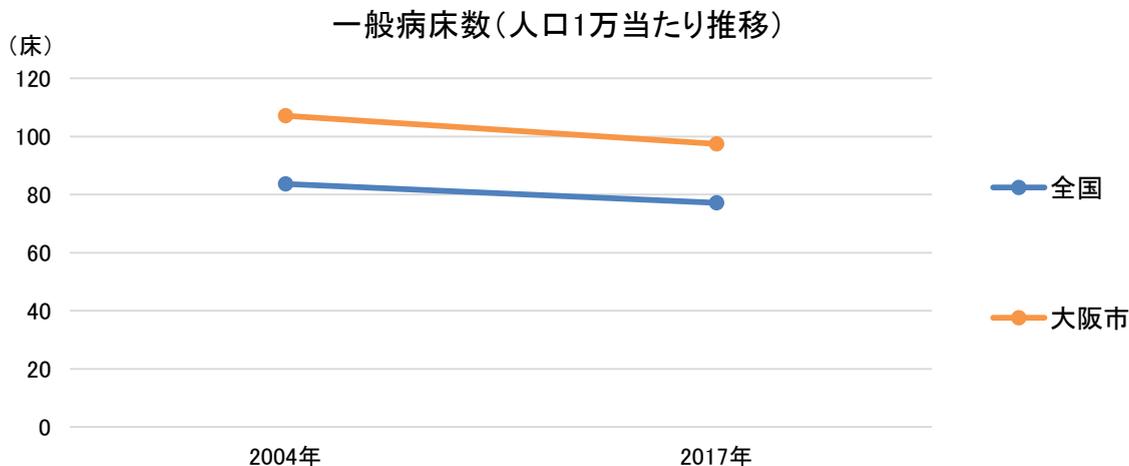
2004年には病院と診療所合わせての総医師数が8,332人(人口10万人当たり317人(全国平均212人)偏差値63)であったが、2016年に8,841人(人口10万人当たり329人(全国平均240人)偏差値60)と、509人の増加、率にして6%の増加(全国平均13%の増加)が見られた。

人口当たり医師数・総病床数の推移



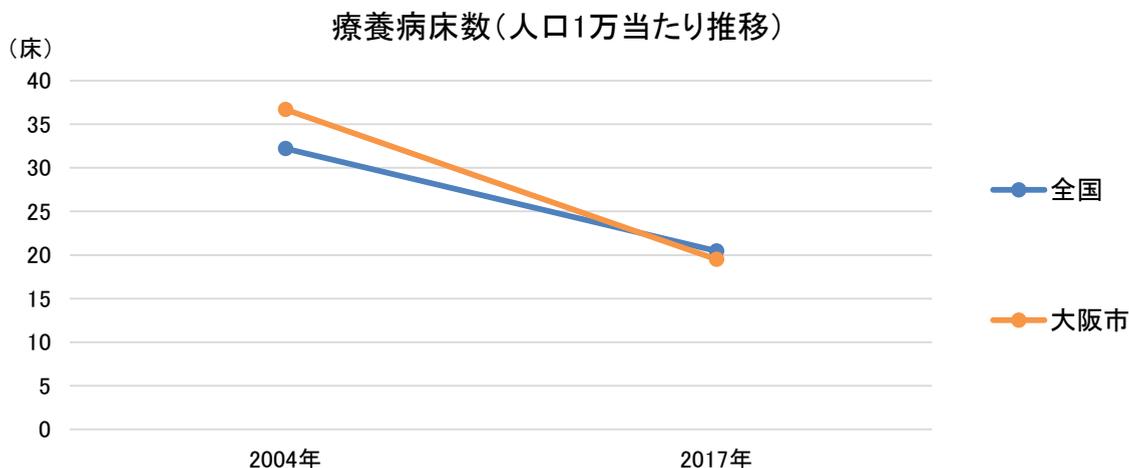
【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が28,150床(人口1万人当たり107(全国平均84)偏差値58)であったが、2017年に26,217床(人口1万人当たり97(全国平均77)偏差値58)と、1,933床の減少、率にして7%の減少(全国平均8%の減少)が見られた。



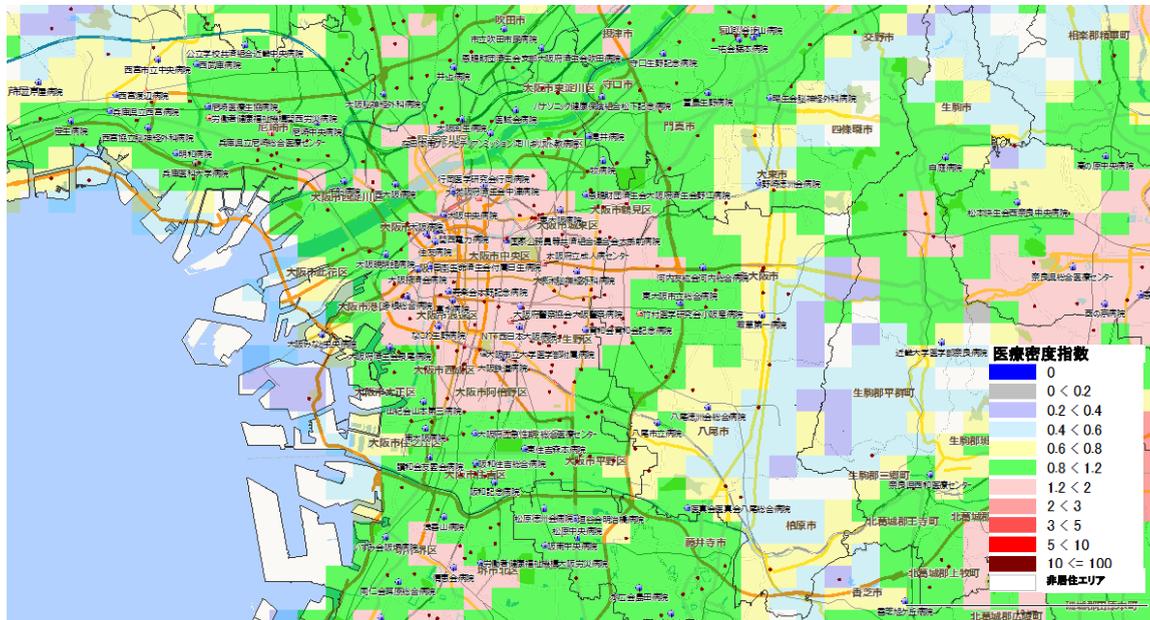
【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が8,033床(75歳以上1,000人当たり37(全国平均32)偏差値53)であったが、2017年に6,319床(75歳以上1,000人当たり19(全国平均20)偏差値49)と、1714床の減少、率にして21%の減少(全国平均11%の減少)が見られた。



(大阪市医療圏) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表27-8-1 急性期医療密度指数マップ



図表27-8-2 分娩医療機関への所用運転時間(カバーエリア)

※全国1km²メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関(病院と有床診療所)への運転時間を計算し、1km²メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの(「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照(日医総研WP no. 400))

